

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|---|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 1年 | 学期 | 前期 |
| 科目名 | 心理学 I | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 2 |
| 担当教員 | 八木 順子 | 実務経験 | 無 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 心理学の視点から人について学びます。 ① 人の発達課題・問題 ②精神疾患 ③コミュニケーション技法 ② | | | | |
| 到達目標 | 心理学を学ぶことにより、人への深い理解をもつことができるようになる。 | | | | |
| 成績評価 | 試験・提出物・出席等で総合的に評価します。 | | | | |
| 使用教材 | プリントを配布いたします。 | | | | |
| 留意点 | | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|-------------------|
| 第1回 | オリエンテーション・心理学について |
| 第2回 | 自分自身を知る |
| 第3回 | からだところ |
| 第4回 | 身体関連障害 |
| 第5回 | 発達について |
| 第6回 | こころの発達Ⅰ（胎児期・新生児期） |
| 第7回 | こころの発達Ⅱ（乳児期・幼児期） |
| 第8回 | こころの発達Ⅲ（学童期） |
| 第9回 | 神経発達障害 |
| 第10回 | 児童虐待 |
| 第11回 | こころの発達Ⅳ（青年期） |
| 第12回 | 不安障害 |
| 第13回 | 摂食障害 |
| 第14回 | コミュニケーション技法Ⅰ |
| 第15回 | まとめ |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|--|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 1年 | 学期 | 後期 |
| 科目名 | 心理学Ⅱ | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 2 |
| 担当教員 | 八木順子 | 実務経験 | 無 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 心理学の視点から人について学びます。 人の発達課題・問題 ②精神疾患 ③コミュニケーション技法 | | | | |
| 到達目標 | 心理学を学ぶことにより、人への深い理解をもつことができるようになる。 | | | | |
| 成績評価 | 試験・提出物・出席等で総合的に評価します。 | | | | |
| 使用教材 | プリントを配布いたします。 | | | | |
| 留意点 | | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|-------------------------|
| 第1回 | 性的違和 |
| 第2回 | 統合失調症スペクトラム |
| 第3回 | 強迫関連障害 |
| 第4回 | うつ病・双極性障害 |
| 第5回 | パーソナリティ障害 |
| 第6回 | こころの発達Ⅴ（成人期）・物質関連障害及び嗜癖 |
| 第7回 | ドメスティック・バイオレンス |
| 第8回 | 外傷後ストレス障害・解離性障害 |
| 第9回 | こころの発達Ⅵ（老年期）・神経認知障害 |
| 第10回 | 老い・死・看取り |
| 第11回 | スポーツ心理学Ⅰ |
| 第12回 | スポーツ心理学Ⅱ |
| 第13回 | 倫理 |
| 第14回 | まとめ |
| 第15回 | コミュニケーション技法Ⅱ |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|---|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 1年 | 学期 | 前期 |
| 科目名 | 保健概論 I | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 2 |
| 担当教員 | 戸崎 素成 | 実務経験 | 無 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 運動器の機能を理解し体感する。 体の仕組みを理解し実践する。 | | | | |
| 到達目標 | 主要な骨格筋の機能を理解する。 ストレッチ、トレーニングをおこないコンディショニング効果を体感する。 | | | | |
| 成績評価 | 出席 (50%) 期末試験 (50%) | | | | |
| 使用教材 | 柔道整復学 (理論編・実技編) : 社団法人全国柔道整復学校協会 監修 : 南江堂 | | | | |
| 留意点 | | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|---------------|
| 第1回 | 授業概要 |
| 第2回 | 運動器について |
| 第3回 | ストレッチについて |
| 第4回 | セルフストレッチ 上半身 |
| 第5回 | セルフストレッチ 下半身 |
| 第6回 | パートナーストレッチ上半身 |
| 第7回 | パートナーストレッチ下半身 |
| 第8回 | トレーニング理論 |
| 第9回 | レジスタンストレーニング |
| 第10回 | レジスタンストレーニング |
| 第11回 | 有酸素運動 |
| 第12回 | 有酸素運動 |
| 第13回 | バランストレーニング |
| 第14回 | バランストレーニング |
| 第15回 | 前期まとめ |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|---|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 1年 | 学期 | 後期 |
| 科目名 | 保健概論II | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 2 |
| 担当教員 | 戸崎 素成 | 実務経験 | 無 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 運動器の機能を理解し体感する。 体の仕組みを理解し実践する。 | | | | |
| 到達目標 | 人体の正常な機能が説明できる。 怪我を理解し対応できる。 | | | | |
| 成績評価 | 出席 (50%) 期末試験 (50%) | | | | |
| 使用教材 | 柔道整復学 (理論編・実技編) : 社団法人全国柔道整復学校協会 監修 : 南江堂 | | | | |
| 留意点 | 積極的に授業に参加すること | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|--------------|
| 第1回 | 体表解剖 |
| 第2回 | ROM検査 |
| 第3回 | ROM検査 |
| 第4回 | MMT検査 |
| 第5回 | MMT検査 |
| 第6回 | アライメント、周径、長さ |
| 第7回 | テーピング |
| 第8回 | テーピング |
| 第9回 | テーピング |
| 第10回 | テーピング |
| 第11回 | テーピング |
| 第12回 | 救急時の固定 |
| 第13回 | 救急時の固定 |
| 第14回 | 救急時の搬送方法 |
| 第15回 | 総合復習 |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | | | | | | | |
|---------|---|------|-----------|-----|----|------|-----|---------|-----|-----|-----|
| | | 対象学年 | 1年 | 学期 | 前期 | | | | | | |
| 科目名 | 統計学 | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 2 | | | | | | |
| 担当教員 | 平松裕紀子 | 実務経験 | 無 | 時間数 | 30 | | | | | | |
| 学修内容 | 将来、社会に出ると様々なデータを目にする機会が多々ある。そんな時、それを鵜呑みにしたり、漠然と見たりするのではなく、その数字やグラフから読み取るべきことを見抜く洞察力を養う。 | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 統計の専門用語 平均、メディアン、中央点、モード、分散、標準偏差について説明でき、実際に計算して値を求めることができる。 検定の手順、方法を理解し、場合によっては異なる検定方法を正しく選べるようにする。 | | | | | | | | | | |
| 成績評価 | <table border="0"> <tr> <td>定期試験</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>毎回のレポート</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>出席点</td> <td>15%</td> </tr> </table> | | | | | 定期試験 | 70% | 毎回のレポート | 15% | 出席点 | 15% |
| 定期試験 | 70% | | | | | | | | | | |
| 毎回のレポート | 15% | | | | | | | | | | |
| 出席点 | 15% | | | | | | | | | | |
| 使用教材 | 社会科学系学生のための統計学 佐々木政文著（共立出版株式会社） | | | | | | | | | | |
| 留意点 | | | | | | | | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|-------------------------|
| 第1回 | 第1章 確率統計の基本概念（実力テストを含む） |
| 第2回 | 第2章 データの処理（I）(1)母集団と標本 |
| 第3回 | 〃 (2)データの整理 |
| 第4回 | 〃 (3)データの特性値 |
| 第5回 | 〃 (4)プリント学習 |
| 第6回 | 第5章 連続学分布 (1)正規分布（I） |
| 第7回 | 〃 (2) 〃 (III) |
| 第8回 | 〃 (3)教科書以外の問題 |
| 第9回 | 〃 (4)四分位範囲と箱ひげ図 |
| 第10回 | 〃 (5) 〃 |
| 第11回 | 第10章 検定 (1)検定の手順 |
| 第12回 | 〃 (2)平均の検定 |
| 第13回 | 〃 (3)平均の差の検定 |
| 第14回 | 〃 (4)差の平均の検定 |
| 第15回 | 〃 (5)試験対策プリントで学習 |

2021 年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II 部 | | |
|------|--|------|------------|-----|----|
| | | 対象学年 | 1 年 | 学 期 | 前期 |
| 科目名 | 英語 I | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 2 |
| 担当教員 | 諸岡 淳子 | 実務経験 | 無 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 柔道整復師として、将来、社会に出た時に医療現場で出会う可能性の高い医療単語等の一般的知識を学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | 柔道整復師の仕事の主部分である、骨格系の学術用語、略語、学術用語を構成する合成語の構造について理解する。 | | | | |
| 成績評価 | 定期試験（80 点満点） 残り 20 点は 10 点分が平常点（出席状態）。10 点分を授業中の態度点とします。 （後者の態度点は授業の進行を妨げる迷惑行為を減点対象とする。） | | | | |
| 使用教材 | プリントを使って授業をすすめます。 参考図書としては「新版 医学英語」「旧 医学英語」 | | | | |
| 留意点 | | | | | |

| 回 数 | 授業計画 |
|--------|------------------------|
| 第 1 回 | ガイダンス 医学用語の構造について。 |
| 第 2 回 | 複合語と合成語。カルテの形式と項目について。 |
| 第 3 回 | よく出合う医療関係の英語 |
| 第 4 回 | よく出合う医療関係の英語 |
| 第 5 回 | 医療略語について |
| 第 6 回 | 疾患別の痛みの表現について |
| 第 7 回 | 骨格系（骨名について）の学習。 |
| 第 8 回 | 骨格系（骨名について）の学習。 |
| 第 9 回 | 骨格系（関節名について）の学習。 |
| 第 10 回 | 骨格系（関節名について）の学習。 |
| 第 11 回 | 骨名の問題演習 |
| 第 12 回 | 骨名の問題演習 |
| 第 13 回 | 体の方向、位置、運動を表す形容詞と名詞。 |
| 第 14 回 | 医療英会話 |
| 第 15 回 | 総復習 |

2021 年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II 部 | | |
|------|--|------|------------|-----|----|
| | | 対象学年 | 1 年 | 学 期 | 後期 |
| 科目名 | 英語 II | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 2 |
| 担当教員 | 諸岡 淳子 | 実務経験 | 無 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 柔道整復師として、将来、社会に出た時に医療現場で会う可能性の高い医療単語等の一般的知識を学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | 柔道整復師の仕事の主部分である、関節、筋肉、神経系の学術用語、略語、学術用語を構成する合成語の構造について理解する。 | | | | |
| 成績評価 | 定期試験（80 点満点） 残り 20 点は 10 点分が平常点（出席状態）。10 点分を授業中の態度点とします。 （後者の態度点は授業の進行を妨げる迷惑行為を減点対象とする。） | | | | |
| 使用教材 | プリントを使って授業をすすめます。 参考図書としては「新版 医学英語」「旧 医学英語」 | | | | |
| 留意点 | | | | | |

| 回 数 | 授業計画 |
|--------|-----------------------------------|
| 第 1 回 | Arthroscope で膝 ope を受けた患者のリハビリノート |
| 第 2 回 | Arthroscope で膝 ope を受けた患者のリハビリノート |
| 第 3 回 | 筋肉名について（筋肉の形状等から覚える方法の解説） |
| 第 4 回 | 筋肉名について（筋肉の形状等から覚える方法の解説） |
| 第 5 回 | 筋肉の問題演習 |
| 第 6 回 | 筋肉の問題演習 |
| 第 7 回 | 患者との医療英会話 |
| 第 8 回 | 患者との医療英会話 |
| 第 9 回 | 神経系（神経名について）の学習 |
| 第 10 回 | 神経系（神経名について）の学習 |
| 第 11 回 | 神経に関する問題演習 |
| 第 12 回 | 神経に関する問題演習 |
| 第 13 回 | 神経に関する問題演習 |
| 第 14 回 | 総復習 |
| 第 15 回 | 総復習 |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|---|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 1年 | 学期 | 前期 |
| 科目名 | 解剖学 I | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 木全 健太郎 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 柔道整復に必要な頭頸部から上肢の筋・骨格系の知識を修得する。 | | | | |
| 到達目標 | 骨およびその部位名称が理解できること。筋の起始、停止、支配神経および作用について、骨格模型を用いて説明できること。体表から触れる構造については、正確に触察できること。 | | | | |
| 成績評価 | 中間試験 40% 期末試験 60% | | | | |
| 使用教材 | 解剖学（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・医歯薬出版） コメディカルのための臨床解剖学サブノート（骨格・筋） | | | | |
| 留意点 | 学習内容が多いため、講義ごとに復習すること。 骨格模型や体表触察を通じて、筋骨格系の3次元的な理解を心がけること。 | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|---------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 解剖学用語 |
| 第3回 | 肩甲帯（鎖骨・肩甲骨） |
| 第4回 | 上腕骨、肩関節 |
| 第5回 | 橈骨・尺骨、肘関節 |
| 第6回 | 手指の骨、手関節 |
| 第7回 | 中間試験（上肢の骨および関節について） |
| 第8回 | 背部の筋（浅背筋と深背筋） |
| 第9回 | 胸部の筋（浅胸筋と深胸筋） |
| 第10回 | 肩甲筋、上腕の筋 |
| 第11回 | 前腕の筋 |
| 第12回 | 中間試験（背部の筋～前腕の筋について） |
| 第13回 | 手の筋 |
| 第14回 | 頭部・頸部の骨 |
| 第15回 | 頭部・頸部の筋 |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|--|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 1年 | 学期 | 前期 |
| 科目名 | 解剖学Ⅱ | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 高橋 亮 | 実務経験 | 無 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 柔道整復師として患者に施術を行う上で、必要不可欠な下肢の骨格系および筋系の解剖学的知識を習得する | | | | |
| 到達目標 | 下肢の骨・筋の構造と機能について、説明することができる 運動器系と神経系、循環器系の知識を統合し、説明することができる 柔道整復師が取り扱う障害について、障害部位の構造を正確に説明することができる | | | | |
| 成績評価 | 定期試験（100％） 形式；筆記試験 | | | | |
| 使用教材 | <ul style="list-style-type: none"> ・解剖学（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・医歯薬出版） ・コメディカルのための臨床解剖学サブノート ・機能解剖で斬る神経系疾患 第2版（メディカルプレス） ・プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト（医学書院） | | | | |
| 留意点 | ※欠席は極力控えるよう喚起する。 ※授業や試験には、医療人としての適切な態度で臨むように指導する | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|-----------------|
| 第1回 | オリエンテーション、解剖学総論 |
| 第2回 | 骨格系総論 |
| 第3回 | 骨盤 サブノート |
| 第4回 | 大腿骨・股関節 |
| 第5回 | 下腿の骨・膝関節 |
| 第6回 | 足の骨・距腿関節 |
| 第7回 | 骨盤の全景 |
| 第8回 | 脊柱・胸郭 |
| 第9回 | 骨格系総復習 |
| 第10回 | 筋系総論 |
| 第11回 | 下肢の筋 骨盤筋 |
| 第12回 | 大腿の筋 |
| 第13回 | 下腿の筋 |
| 第14回 | 腹部の筋 |
| 第15回 | 筋系総復習 |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|---|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 1年 | 学期 | 後期 |
| 科目名 | 解剖学Ⅲ | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 畑山直之、福重 香 | 実務経験 | 無 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 人体の構造をマクロからミクロまで統括的に学び、機能的意義を理解する。 | | | | |
| 到達目標 | 人体構造の系統を把握し、解剖用語によって正確に説明できる。 脈管系の構成、細胞・組織の特徴、機能的・臨床的意義を説明できる。 | | | | |
| 成績評価 | 定期試験、小テスト、レポート、学習態度 | | | | |
| 使用教材 | 「コメディカルのための臨床解剖学サブノート」 「解剖学」医歯薬出版株式会社 | | | | |
| 留意点 | | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|--------------------|
| 第1回 | 脈管系 総論 |
| 第2回 | 心臓Ⅰ 位置と形態、構造、弁 |
| 第3回 | 心臓Ⅱ 心壁、心臓の脈管と神経、心膜 |
| 第4回 | 動脈系Ⅰ 大動脈、頭頸部の動脈（1） |
| 第5回 | 動脈系Ⅱ 頭頸部の動脈（2） |
| 第6回 | 動脈系Ⅲ 上肢の動脈 |
| 第7回 | 動脈系Ⅳ 胸大動脈、腹大動脈（1） |
| 第8回 | 動脈系Ⅴ 腹大動脈（2） |
| 第9回 | 動脈系Ⅵ 骨盤部の動脈、下肢の動脈 |
| 第10回 | 静脈系Ⅰ 上大静脈（1） |
| 第11回 | 静脈系Ⅱ 上大静脈（2） |
| 第12回 | 静脈系Ⅲ 下大静脈（1）、門脈 |
| 第13回 | 静脈系Ⅳ 下大静脈（2） |
| 第14回 | リンパ系、胎児循環 |
| 第15回 | 内臓系 消化器Ⅰ 総論、口（1） |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|---|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 1年 | 学期 | 後期 |
| 科目名 | 解剖学Ⅳ | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 畑山直之、福重 香 | 実務経験 | 無 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 人体の構造をマクロからミクロまで統括的に学び、機能的意義を理解する。 | | | | |
| 到達目標 | 人体構造の系統を把握し、解剖用語によって正確に説明できる。 内臓系の構成、細胞・組織の特徴、機能的・臨床的意義を説明できる。 | | | | |
| 成績評価 | 定期試験、小テスト、レポート、学習態度 | | | | |
| 使用教材 | 「コメディカルのための臨床解剖学サブノート」 「解剖学」医歯薬出版株式会社 | | | | |
| 留意点 | | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|------------------|
| 第1回 | 消化器Ⅱ 口(2) |
| 第2回 | 消化器Ⅲ 咽頭、食道、胃 |
| 第3回 | 消化器Ⅳ 小腸 |
| 第4回 | 消化器Ⅴ 大腸、肝臓 |
| 第5回 | 消化器Ⅵ 胆嚢、膵臓、腹膜 |
| 第6回 | 呼吸器Ⅰ 総論、鼻、喉頭 |
| 第7回 | 呼吸器Ⅱ 気管・気管支、肺、胸膜 |
| 第8回 | 泌尿器Ⅰ 総論、腎臓 |
| 第9回 | 泌尿器Ⅱ 尿管、膀胱、尿道 |
| 第10回 | 生殖器Ⅰ 総論、男性生殖器(1) |
| 第11回 | 生殖器Ⅱ 男性生殖器(2)(3) |
| 第12回 | 生殖器Ⅲ 女性生殖器(1) |
| 第13回 | 生殖器Ⅳ 女性生殖器(2) |
| 第14回 | 生殖器Ⅴ 女性生殖器(3) |
| 第15回 | 内分泌系 内分泌臓器 |

2021 年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II 部 | | |
|------|---|------|------------|-----|-----|
| | | 対象学年 | 1 年 | 学 期 | 前 期 |
| 科目名 | 解剖学Ⅴ | 科目の別 | 講 義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 中野 隆 | 実務経験 | 無 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 神経系の構造と機能を統括的に学び、その意義を理解する。 | | | | |
| 到達目標 | 神経系の構造を統括的に理解し、解剖学用語によって正確に述べることができる。 神経系の構造と機能を結びつけて説明できる。 神経系、運動器系、感覚器系、内臓系の知識を統合し、説明できる。 画像解剖学と対応させて、神経系の三次元構造を説明できる。 | | | | |
| 成績評価 | 定期試験（100%） | | | | |
| 使用教材 | コメディカルのための臨床解剖学サブノート プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト（医学書院） 機能解剖で斬る神経系疾患 第2版（メディカルプレス） 骨学のすゝめ（南江堂） | | | | |
| 留意点 | | | | | |

| 回 数 | 授業計画 |
|------|---------|
| 第1回 | 解剖学総論 |
| 第2回 | 神経系総論 |
| 第3回 | 中枢神経系総論 |
| 第4回 | 中枢神経系総論 |
| 第5回 | 脊髄 |
| 第6回 | 脊髄 |
| 第7回 | 脊髄 |
| 第8回 | 脳幹 |
| 第9回 | 脳幹 |
| 第10回 | 脳幹 |
| 第11回 | 間脳 |
| 第12回 | 小脳 |
| 第13回 | 大脳皮質 |
| 第14回 | 大脳皮質 |
| 第15回 | 髄膜 |

2021 年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II 部 | | |
|------|---|------|------------|-----|-----|
| | | 対象学年 | 1 年 | 学 期 | 後 期 |
| 科目名 | 解剖学VI | 科目の別 | 講 義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 中野 隆 | 実務経験 | 無 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 神経系の構造と機能を統括的に学び、その意義を理解する。 | | | | |
| 到達目標 | 神経系の構造を統括的に理解し、解剖学用語によって正確に述べることができる。 神経系の構造と機能を結びつけて説明できる。 神経系、運動器系、感覚器系、内臓系の知識を統合し、説明できる。 画像解剖学と対応させて、神経系の三次元構造を説明できる。 | | | | |
| 成績評価 | 定期試験 (100%) | | | | |
| 使用教材 | 「コメディカルのための臨床解剖学サブノート」 プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト (医学書院) 機能解剖で斬る神経系疾患 第2版 (メディカルプレス) 骨学のすゝめ (南江堂) | | | | |
| 留意点 | | | | | |

| 回 数 | 授業計画 |
|------|----------|
| 第1回 | 中枢神経系の脈管 |
| 第2回 | 中枢神経系の脈管 |
| 第3回 | 中枢神経系の脈管 |
| 第4回 | 伝導路 |
| 第5回 | 伝導路 |
| 第6回 | 伝導路 |
| 第7回 | 伝導路 |
| 第8回 | 伝導路 |
| 第9回 | 脳神経 |
| 第10回 | 脳神経 |
| 第11回 | 脳神経 |
| 第12回 | 脊髄神経 |
| 第13回 | 脊髄神経 |
| 第14回 | 脊髄神経 |
| 第15回 | 脊髄神経 |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|---|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 1年 | 学期 | 前期 |
| 科目名 | 生理学 I | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 溝口 博之 | 実務経験 | 無 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 柔道整復師に必要な生理学の基礎的知識を修得する。 2年次の柔道整復理論（各論編）を理解するための基礎知識を身につける。 | | | | |
| 到達目標 | 生理学の基礎を学ぶことで人体の構成する要素、細胞の機能、ホメオスタシスについて説明することができる。 神経の基本的機能について説明することができる。 筋肉の機能（種類、構造、しくみなど）について説明することができる。 | | | | |
| 成績評価 | 期末テスト（約80点相当）と授業期間中に行う数回の小テスト・出席（約20点）とで可否を判断する。 | | | | |
| 使用教材 | トートラ／佐伯他 訳：人体解剖生理学原書第10版（丸善出版、2017年刊） 坂井他 訳：人体の正常構造と機能第3版（日本医事新報社、2017年刊） 石川他 訳：ガイトン生理学 原著第13版（エルゼビア・ジャパン株式会社、2018年刊） 本間、小澤、福田監修：標準生理学第8版（医学書院、2014年刊） | | | | |
| 留意点 | 授業内容に関連した問題をだしたり、小テスト、レポート提出を行ったりする。 出席、授業の進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。 授業で使った配布資料を復習することもあるので、なるべく持参すること。 | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|-------------------------|
| 第1回 | 生理学とは：人体を構成する要素、ホメオスタシス |
| 第2回 | 生理学とは：細胞の構造と機能 |
| 第3回 | 生理学とは：組織・器官と生体の機能系 |
| 第4回 | 生理学とは：生体の恒常性と統合機能 |
| 第5回 | 生理学とは：体液の区分と組成 |
| 第6回 | 神経の生理：神経系の構成要素 |
| 第7回 | 神経の生理：静止膜電位、活動電位 |
| 第8回 | 神経の生理：活動電位の伝導 |
| 第9回 | 神経の生理：シナプスにおける興奮伝達 |
| 第10回 | 神経の生理：神経伝達物質と受容体 |
| 第11回 | 筋の生理：骨格筋の構造 |
| 第12回 | 筋の生理：骨格筋の収縮と弛緩 |
| 第13回 | 筋の生理：骨格筋と筋力の関係 |
| 第14回 | 筋の生理：筋電図 |
| 第15回 | 筋の生理：平滑筋、心筋 |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|---|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 1年 | 学期 | 後期 |
| 科目名 | 生理学Ⅱ | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 溝口 博之 | 実務経験 | 無 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 柔道整復師に必要な生理学の基礎的知識を修得する。 2年次の柔道整復理論（各論編）を理解するための基礎知識を身につける。 | | | | |
| 到達目標 | 神経系の機能（内臓機能調節、姿勢と運動の調節、高次機能）について説明することができる。 感覚（体性感覚、内臓感覚、嗅覚、味覚、聴覚、視覚など）の生理的機能について説明することができる。 | | | | |
| 成績評価 | 期末テスト（約80点相当）と授業期間中に行う数回の小テスト・出席（約20点）とで可否を判断する。 | | | | |
| 使用教材 | トートラ／佐伯他 訳：人体解剖生理学原書第10版（丸善出版、2017年刊） 坂井他 訳：人体の正常構造と機能第3版（日本医事新報社、2017年刊） 石川他 訳：ガイトン生理学 原著第13版（エルゼビア・ジャパン株式会社、2018年刊） 本間、小澤、福田監修：標準生理学第8版（医学書院、2014年刊） | | | | |
| 留意点 | 授業内容に関連した問題をだしたり、小テスト、レポート提出を行ったりする。 出席、授業の進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。 授業で使った配布資料を復習することもあるので、なるべく持参すること。 | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|------------------------|
| 第1回 | 神経の生理：神経系の構成1 |
| 第2回 | 神経の生理：神経系の構成2 |
| 第3回 | 神経の生理：内臓機能の調節1 |
| 第4回 | 神経の生理：内臓機能の調節2 |
| 第5回 | 運動の生理：運動の調節 |
| 第6回 | 運動の生理：運動神経と運動単位 |
| 第7回 | 運動の生理：脊髄による反射とその調節 |
| 第8回 | 運動の生理：脳幹による運動調節、高次運動機能 |
| 第9回 | 神経の生理：脳の高次機能1 |
| 第10回 | 神経の生理：脳の高次機能2 |
| 第11回 | 感覚の生理：感覚の種類、感覚の一般的性質 |
| 第12回 | 感覚の生理：体性感覚 |
| 第13回 | 感覚の生理：内臓感覚、嗅覚、味覚 |
| 第14回 | 感覚の生理：聴覚、前庭感覚 |
| 第15回 | 感覚の生理：視覚 |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|---|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 1年 | 学期 | 前期 |
| 科目名 | 生理学Ⅲ | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 溝口 博之 | 実務経験 | 無 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 柔道整復師に必要な生理学の基礎的知識を修得する。 2年次の柔道整復理論（各論編）を理解するための基礎知識を身につける。 | | | | |
| 到達目標 | 骨の構造・形成、骨の病気について説明することができる。 体液の区分や調整、血液の組成について説明することができる。 免疫機能について説明することができる。 心臓の機能、血圧、リンパ管系について説明することができる。 循環（神経性、体液性、脳脊髄液など）の調節機構について説明することができる。 | | | | |
| 成績評価 | 期末テスト（約80点相当）と授業期間中に行う数回の小テスト・出席（約20点）とで合否を判断する。 | | | | |
| 使用教材 | トートラ／佐伯他 訳：人体解剖生理学原書第10版（丸善出版、2017年刊） 坂井他 訳：人体の正常構造と機能第3版（日本医事新報社、2017年刊） 石川他 訳：ガイトン生理学 原著第13版（エルゼビア・ジャパン株式会社、2018年刊） 本間、小澤、福田監修：標準生理学第8版（医学書院、2014年刊） | | | | |
| 留意点 | 授業内容に関連した問題をだしたり、小テスト、レポート提出を行ったりする。 出席、授業の進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。 授業で使った配布資料を復習することもあるので、なるべく持参すること。 | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|-------------------------------------|
| 第1回 | これまでの復習 |
| 第2回 | 骨の生理：骨の構造 |
| 第3回 | 骨の生理：骨の形成過程、骨形成と骨吸収、カルシウムの代謝の調節、骨年齢 |
| 第4回 | 血液：血液の成分と組成 |
| 第5回 | 血液：止血、 |
| 第6回 | 血液：血液型、免疫 |
| 第7回 | 循環：心臓の機能的解剖、心筋の電氣的活動 |
| 第8回 | 循環：心電図 |
| 第9回 | 循環：心臓の活動周期 |
| 第10回 | 循環：各血管の構造と働き |
| 第11回 | 循環：血圧、リンパ管系 |
| 第12回 | 循環：循環の神経性調節・体液性調節 |
| 第13回 | 循環：循環調節1 |
| 第14回 | 循環：循環調節2 |
| 第15回 | これまでの復習 |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|---|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 1年 | 学期 | 後期 |
| 科目名 | 生理学Ⅳ | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 溝口 博之 | 実務経験 | 無 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 柔道整復師に必要な生理学の基礎的知識を修得する。 2年次の柔道整復理論（各論編）を理解するための基礎知識を身につける。 | | | | |
| 到達目標 | 呼吸器の生理機能について説明することができる。各種のエネルギー代謝について説明することができる。体温の調節機構、熱放散の仕組みなどについて説明することができる。消化器系の働き、消化液分泌の分泌機序について説明することができる。糖質・蛋白質・脂質の消化、吸収、肝臓の働きについて説明することができる。 | | | | |
| 成績評価 | 期末テスト（約80点相当）と授業期間中に行う数回の小テスト・出席（約20点）とで可否を判断する。 | | | | |
| 使用教材 | トートラ／佐伯他 訳：人体解剖生理学原書第10版（丸善出版、2017年刊） 坂井他 訳：人体の正常構造と機能第3版（日本医事新報社、2017年刊） 石川他 訳：ガイトン生理学 原著第13版（エルゼビア・ジャパン株式会社、2018年刊） 本間、小澤、福田監修：標準生理学第8版（医学書院、2014年刊） | | | | |
| 留意点 | 授業内容に関連した問題をだしたり、小テスト、レポート提出を行ったりする。 出席、授業の進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。 授業で使った配布資料を復習することもあるので、なるべく持参すること。 | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|--|
| 第1回 | これまでの復習 |
| 第2回 | 呼吸器の機能的構造、換気の仕組み、内圧の変化 |
| 第3回 | 換気量、呼吸のための仕事、ガス交換 |
| 第4回 | 血液の酸素の運搬、二酸化炭素の運搬 |
| 第5回 | 呼吸を調節する仕組み、呼吸の異常、特殊環境下の呼吸 |
| 第6回 | 生体の構成成分と栄養素、高エネルギーリン酸化合物 |
| 第7回 | 吸収期の代謝、空腹期の代謝 |
| 第8回 | 中間代謝の調節、エネルギー代謝量の測定、各種のエネルギー代謝、エネルギー所要量 |
| 第9回 | 体温、体温の生理的変動、体内における熱の産生 |
| 第10回 | 熱放散の物理的仕組み、熱放散を調節する仕組み、体温の調節、うつ熱と発熱、気候順化 |
| 第11回 | 消化器系の働き、消化管の運動とその調節 |
| 第12回 | 消化液分泌の神経性機序と体液性機序、胃液の分泌機序 |
| 第13回 | 糖質・蛋白質・脂質の消化、吸収 |
| 第14回 | 消化管ホルモン、肝臓の働き、胆道系の働き |
| 第15回 | これまでの復習 |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|---|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 2年 | 学期 | 前期 |
| 科目名 | 生理学V | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 緒方 華 | 実務経験 | 無 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 腎の機能と尿の生成、内分泌腺の機能、生殖器の役割について、その重要性の上に立って基本事項を修得し、機能発現のシステムを理解する。 | | | | |
| 到達目標 | 国家試験合格水準を単位取得のラインとし、最低線の目標とする。 器官・組織の関係性から人体の機能を論理的に解釈し、病理学や、臨床医学へ繋げる。 | | | | |
| 成績評価 | 期末に行う定期試験の点数で評価し、100点満点中60点を合格点とする。 | | | | |
| 使用教材 | 全国柔道整復学校協会監修、生理学教科書 | | | | |
| 留意点 | | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|------------------------------|
| 第1回 | 腎の機能一般、腎の機能的構造、糸球体濾過 |
| 第2回 | Na イオン・Cl イオンの再吸収、水の再吸収と排泄 |
| 第3回 | グルコースの再吸収、尿細管における分泌 |
| 第4回 | 尿の成分、排尿 |
| 第5回 | 内分泌腺一般、ホルモンの定義・組成・分泌調節 |
| 第6回 | ホルモンの血中運搬と代謝、作用機序、視床下部ホルモン |
| 第7回 | 下垂体の構造、下垂体前葉ホルモン、下垂体後葉ホルモン |
| 第8回 | 甲状腺の構造と分泌ホルモン、ホルモンの分泌調節・生理作用 |
| 第9回 | 副腎皮質ホルモン、副腎髄質ホルモン |
| 第10回 | 膵臓の内分泌細胞、インスリン・グルカゴン・ソマトスタチン |
| 第11回 | 精巣のホルモン、卵巣のホルモン |
| 第12回 | 性染色体とその異常、性分化 |
| 第13回 | 男性生殖器系の構成、精子形成、勃起と射精 |
| 第14回 | 女性生殖器の構成、卵巣の周期、月経周期 |
| 第15回 | 妊娠と分娩、乳汁分泌 |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|---|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 2年 | 学期 | 前期 |
| 科目名 | 運動学 I | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 中野 隆 | 実務経験 | 無 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 運動器系の構造と機能を統括的に学び、その意義を理解する | | | | |
| 到達目標 | 運動器の機能を系統的に理解し、医学用語によって正確に説明することができる 運動器系の構造と機能を結び付けて説明できる 解剖学、運動学、臨床医学（整形外科学、神経内科学）の知識を統合し、説明できる | | | | |
| 成績評価 | 定期試験で評価する（100%） | | | | |
| 使用教材 | コメディカルのための運動学サブノート 運動器の機能解剖 プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト（医学書院） 機能解剖で斬る神経系疾患 第2版（メディカルプレス） 骨学のすゝめ（南江堂） | | | | |
| 留意点 | | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|---------------------|
| 第1回 | 上肢および下肢の体表解剖、運動学総論 |
| 第2回 | 運動学総論 |
| 第3回 | 上肢の運動・上肢帯の運動 |
| 第4回 | 上肢の運動・肘関節および前腕の運動 1 |
| 第5回 | 上肢の運動・肘関節および前腕の運動 2 |
| 第6回 | 上肢の運動・手関節および手の運動 1 |
| 第7回 | 上肢の運動・手関節および手の運動 2 |
| 第8回 | 上肢の運動・上肢への脊髄神経 |
| 第9回 | 下肢の運動・下支帯の運動 |
| 第10回 | 下肢の運動・膝関節 1 |
| 第11回 | 下肢の運動・膝関節 2 |
| 第12回 | 下肢の運動・下肢の二関節筋 |
| 第13回 | 下肢の運動・足の運動 |
| 第14回 | 下肢の運動・下肢への脊髄神経 |
| 第15回 | 体幹の運動・椎骨の連結 |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|---|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 2年 | 学期 | 後期 |
| 科目名 | 運動学Ⅱ | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 中野 隆 | 実務経験 | 無 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 運動器系の構造と機能を統括的に学び、その意義を理解する | | | | |
| 到達目標 | 運動器の機能を系統的に理解し、医学用語によって正確に説明することができる 運動器系の構造と機能を結び付けて説明できる 解剖学、運動学、臨床医学（整形外科学、神経内科学）の知識を統合し、説明できる | | | | |
| 成績評価 | 定期試験で評価する（100%） | | | | |
| 使用教材 | コメディカルのための運動学サブノート 運動器の機能解剖 プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト（医学書院） 機能解剖で斬る神経系疾患 第2版（メディカルプレス） 骨学のすゝめ（南江堂） | | | | |
| 留意点 | | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|-----------------------|
| 第1回 | 体幹の運動・頸椎の運動 1 |
| 第2回 | 前期定期試験の結果と試験問題の解説 その他 |
| 第3回 | 体幹の運動・頸椎の運動 2 |
| 第4回 | 体幹の運動・胸椎および胸郭の運動 |
| 第5回 | 体幹の運動・腰椎の運動 1 |
| 第6回 | 体幹の運動・胸椎の運動 2 |
| 第7回 | 姿勢 |
| 第8回 | 歩行 |
| 第9回 | 反射 |
| 第10回 | 運動神経伝導路 |
| 第11回 | 運動神経伝導路 |
| 第12回 | 運動神経伝導路 |
| 第13回 | 運動神経伝導路 |
| 第14回 | 運動麻痺・運動失調 |
| 第15回 | 不随意運動 |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|--|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 2年 | 学期 | 後期 |
| 科目名 | 生理学VI | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 2 |
| 担当教員 | 太田 康晴 | 実務経験 | ○有・無 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 高齢者および競技者にみられる生理学的特徴・変化を学習する。 | | | | |
| 到達目標 | 高齢者にみられる生理学的変化を器官ごとに専門用語を用いて説明できる。 高齢者の歩行機能について専門用語を用いて説明できる。 小児期から青年期の発達曲線が専門用語を用いて説明できる。 トレーニングによる筋・心肺機能の変化が専門用語を用いて説明できる。 トレーニングによる姿勢調節能力の変化が専門用語を用いて説明できる。 | | | | |
| 成績評価 | 期末試験 100% | | | | |
| 使用教材 | 生理学教科書（南江堂） | | | | |
| 留意点 | 30時間の内訳は「高齢者の生理学的特徴・変化」で15時間、「競技者の生理学的特徴・変化」で15時間実施する。 | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|------------------------------------|
| 第1回 | 【高齢者】細胞の加齢現象 |
| 第2回 | 【高齢者】細胞内小器官の変化 |
| 第3回 | 【高齢者】神経の変化 |
| 第4回 | 【高齢者】運動器系の変化 |
| 第5回 | 【高齢者】感覚器系の変化 |
| 第6回 | 【高齢者】循環器系・呼吸器系・消化器系・皮膚の変化 |
| 第7回 | 【高齢者】高齢者に多い疾患・障害 |
| 第8回 | 【高齢者】運動と加齢 【競技者】小児期から青年期の発達曲線 |
| 第9回 | 【競技者】小児期から青年期の発育の特徴 |
| 第10回 | 【競技者】小児期から青年期の呼吸循環系機能と運動 |
| 第11回 | 【競技者】発育期の運動不足・過運動の影響 |
| 第12回 | 【競技者】運動の発達と習熟 |
| 第13回 | 【競技者】トレーニングによる筋・心肺機能の適応的变化 |
| 第14回 | 【競技者】トレーニングによる神経機構の変化・姿勢調節能力の変化 |
| 第15回 | 【競技者】眼球運動と姿勢制御 |

2021 年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II 部 | | |
|------|---|------|------------|-----|-----|
| | | 対象学年 | 2 年 | 学 期 | 前 期 |
| 科目名 | 病理学概論 I | 科目の別 | 講 義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 宮崎 刀一 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 柔道整復師に必要な病理学の知識を修得する。 疾病の本態を探求する病理学の概念を知り、疾病の発生機序と分類、それによってもたらされる病態の概要を学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | 疾病に関する知識を深め、疾病の経過、予後、転帰を理解する。 細胞障害、循環障害、進行性病変、退行性病変、炎症に関する理解を深める。 | | | | |
| 成績評価 | 中間テスト 30 点 期末テスト 70 点 出席状況や授業態度も考慮する。 | | | | |
| 使用教材 | 病理学概論 改訂第 3 版 医歯薬出版 | | | | |
| 留意点 | | | | | |

| 回 数 | 授業計画 |
|--------|--------------|
| 第 1 回 | 病理学概論 |
| 第 2 回 | 疾病の一般 |
| 第 3 回 | 退行性病変 (1) |
| 第 4 回 | 退行性病変 (2) |
| 第 5 回 | 代謝障害 (1) |
| 第 6 回 | 代謝障害 (2) |
| 第 7 回 | 進行性病変 (1) |
| 第 8 回 | 進行性病変 (2) |
| 第 9 回 | 細胞、組織の適応 (1) |
| 第 10 回 | 細胞、組織の適応 (2) |
| 第 11 回 | 炎症総論 (1) |
| 第 12 回 | 炎症総論 (2) |
| 第 13 回 | 炎症各論 (1) |
| 第 14 回 | 炎症各論 (2) |
| 第 15 回 | 総まとめ |

2021 年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II 部 | | |
|------|---|------|------------|-----|-----|
| | | 対象学年 | 2 年 | 学 期 | 後 期 |
| 科目名 | 病理学概論Ⅱ | 科目の別 | 講 義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 宮崎 刀一 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 柔道整復師に必要な病理学の知識を修得する。 疾病の本態を探求する病理学の概念を知り、疾病の発生機序と分類、それによってもたらされる病態の概要を学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | 疾病に関する知識を深め、疾病の経過、予後、転帰を理解する。 免疫、腫瘍、先天異常、病因に関する理解を深める。 | | | | |
| 成績評価 | 中間テスト 30 点 期末テスト 70 点 出席状況や授業態度も考慮する。 | | | | |
| 使用教材 | 病理学概論 改訂第 3 版 医歯薬出版 | | | | |
| 留意点 | | | | | |

| 回 数 | 授業計画 |
|--------|----------|
| 第 1 回 | 免疫総論 |
| 第 2 回 | 免疫各論 (1) |
| 第 3 回 | 免疫各論 (2) |
| 第 4 回 | 腫瘍総論 (1) |
| 第 5 回 | 腫瘍総論 (2) |
| 第 6 回 | 腫瘍各論 (1) |
| 第 7 回 | 腫瘍各論 (2) |
| 第 8 回 | 先天異常総論 |
| 第 9 回 | 先天異常各論 |
| 第 10 回 | 外因 (1) |
| 第 11 回 | 外因 (2) |
| 第 12 回 | 内因 (1) |
| 第 13 回 | 内因 (2) |
| 第 14 回 | 総まとめ |
| 第 15 回 | 総まとめ (2) |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|--|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 2年 | 学期 | 前期 |
| 科目名 | 一般臨床 I | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 楠本 高紀 | 実務経験 | 有・無 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 柔道整復師に必要な診察の基本を修得することができる。 | | | | |
| 到達目標 | 1. 各診察の方法とその意義を修得することができる。 2. 症状・所見から柔道整復師が臨床現場で注意しなければならない事項を修得することができる。 | | | | |
| 成績評価 | 学科試験結果と各期の出席率及び授業態度等を勘案して評価する。 | | | | |
| 使用教材 | 一般臨床医学：公益社団法人全国柔道整復学校協会版（南江堂） 授業時の配布資料 | | | | |
| 留意点 | 出席率の評価は本校の生徒便覧の記載に準拠するが、授業については全出席すること基本と思慮するため、欠席しがちの生徒には指導するので心がけておくこと。 | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|---------------------------------|
| 第1回 | ガイダンス、年間予定発表、診察概論（診察の意義、診察の進め方） |
| 第2回 | 診察各論（医療面接、視診①） |
| 第3回 | 〃（視診②） |
| 第4回 | 〃（視診③） |
| 第5回 | 〃（視診④） |
| 第6回 | 〃（打診、聴診） |
| 第7回 | 〃（触診①） |
| 第8回 | 〃（触診②） |
| 第9回 | 〃（生命徴候、感覚検査） |
| 第10回 | 〃（反射検査①） |
| 第11回 | 〃（反射検査②） |
| 第12回 | 〃（代表的な臨床症状①） |
| 第13回 | 〃（代表的な臨床症状②） |
| 第14回 | 〃（代表的な臨床症状③） |
| 第15回 | 〃（検査法） |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II 部 | | |
|------|------------------------------|------|------------|-----|----|
| | | 対象学年 | 2年 | 学期 | 後期 |
| 科目名 | 一般臨床医学Ⅱ | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 舘正之 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 柔道整復師に必要な内科的知識を身に付ける。 | | | | |
| 到達目標 | 国家試験合格に必要な知識を修得する。 | | | | |
| 成績評価 | 定期試験および授業態度で評価。 | | | | |
| 使用教材 | 一般臨床医学：公益社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂） | | | | |
| 留意点 | | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|--------------------------|
| 第1回 | ガイダンス、講義予定説明 |
| 第2回 | 呼吸器疾患① 総論 |
| 第3回 | 呼吸器疾患② かぜ症候群～気胸 |
| 第4回 | まとめ、小テスト |
| 第5回 | 循環器疾患① 総論、うっ血性心不全、虚血性心疾患 |
| 第6回 | 循環器疾患② 心臓弁膜症、先天性心疾患 |
| 第7回 | 循環器疾患③ 高血圧症～不整脈 |
| 第8回 | まとめ、小テスト |
| 第9回 | 消化器疾患① 総論、食道炎～胃癌 |
| 第10回 | 消化器疾患② 潰瘍性大腸炎～腸閉塞 |
| 第11回 | 肝胆膵疾患① 急性肝炎～肝癌 |
| 第12回 | 肝胆膵疾患② 胆石症～腹膜炎 |
| 第13回 | まとめ、小テスト |
| 第14回 | 代謝疾患 |
| 第15回 | まとめ、小テスト |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II 部 | | |
|------|------------------------------|------|------------|-----|----|
| | | 対象学年 | 3年 | 学期 | 前期 |
| 科目名 | 一般臨床医学Ⅲ | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 舘正之 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 柔道整復師に必要な内科的知識を身に付ける。 | | | | |
| 到達目標 | 国家試験合格に必要な知識を習得する。 | | | | |
| 成績評価 | 定期試験および授業態度で評価。 | | | | |
| 使用教材 | 一般臨床医学：公益社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂） | | | | |
| 留意点 | | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|------------------------------------|
| 第1回 | ガイダンス、講義予定説明。内分泌疾患① 総論、下垂体疾患、甲状腺疾患 |
| 第2回 | 内分泌疾患② 副甲状腺疾患、副腎皮質疾患 |
| 第3回 | まとめ 小テスト |
| 第4回 | 血液・造血器疾患① 総論、赤血球疾患 |
| 第5回 | 血液・造血器疾患② 白血球疾患、リンパ系疾患、血漿蛋白異常症 |
| 第6回 | まとめ 小テスト |
| 第7回 | 腎・尿路疾患① 総論、腎不全、CKD、血液浄化療法 腎移植 |
| 第8回 | 腎・尿路疾患② 糸球体疾患、尿路感染症、泌尿器疾患 |
| 第9回 | まとめ、小テスト |
| 第10回 | 神経疾患① 総論、脳血管障害、腫瘍性疾患～筋疾患 |
| 第11回 | 神経疾患② パーキンソン病～筋疾患 |
| 第12回 | まとめ、小テスト |
| 第13回 | リウマチ性疾患 総論、関節リウマチ～シェーグレン症候群 |
| 第14回 | 感染症 総論、AIDS、带状疱疹 |
| 第15回 | まとめ、テスト |

2021 年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II 部 | | |
|------|--|------|------------|-----|-----|
| | | 対象学年 | 3 年 | 学 期 | 前 期 |
| 科目名 | 外科学概論 I | 科目の別 | 講 義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 舘正之 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 柔道整復師に必要な外科学の知識を習得する。 実際に臨床現場での救急処置なども習得する。 | | | | |
| 到達目標 | 応急処置治療および病院への搬送の必要性の判断が出来る。 | | | | |
| 成績評価 | 定期試験および授業態度で評価。 | | | | |
| 使用教材 | 外科学概論：公益社団法人全国柔道整復学校協会監修（南江堂） 標準外科学（医学書院） | | | | |
| 留意点 | | | | | |

| 回 数 | 授 業 計 画 |
|--------|-----------------------|
| 第 1 回 | ガイダンス、年間予定発表 総論 損傷、創傷 |
| 第 2 回 | 総論 熱傷 小テスト |
| 第 3 回 | 総論 炎症 外科感染症 |
| 第 4 回 | 総論 小テスト |
| 第 5 回 | 総論 腫瘍（良性腫瘍） |
| 第 6 回 | 総論 腫瘍（悪性腫瘍） |
| 第 7 回 | 総論 腫瘍（悪性腫瘍・治療・疫学） |
| 第 8 回 | 総論 小テスト |
| 第 9 回 | 総論 ショック |
| 第 10 回 | 総論 輸血、輸液 |
| 第 11 回 | 総論 小テスト |
| 第 12 回 | 総論 消毒と滅菌 |
| 第 13 回 | 総論 手術 麻酔 |
| 第 14 回 | 総論 移植と免疫 |
| 第 15 回 | 総論 出血と止血 心肺蘇生法 |

2021 年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II 部 | | |
|------|--|------|------------|-----|-----|
| | | 対象学年 | 3 年 | 学 期 | 後 期 |
| 科目名 | 外科学概論Ⅱ | 科目の別 | 講 義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 舘正之 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 柔道整復師に必要な外科学の知識を習得する。 実際に臨床現場での救急処置なども習得する。 | | | | |
| 到達目標 | 各疾患を理解し知識を深める。 | | | | |
| 成績評価 | 定期試験および授業態度で評価。 | | | | |
| 使用教材 | 外科学概論：公益社団法人全国柔道整復学校協会監修（南江堂） 標準外科学（医学書院） | | | | |
| 留意点 | | | | | |

| 回 数 | 授 業 計 画 |
|--------|-----------------------|
| 第 1 回 | 脳神経外科 徴候 |
| 第 2 回 | 脳神経外科 頭部外傷（外科領域） |
| 第 3 回 | 脳神経外科 脳血管障害・脳腫瘍（外科領域） |
| 第 4 回 | 小テスト |
| 第 5 回 | 甲状腺疾患・乳腺疾患 |
| 第 6 回 | 胸部外科 肺癌（外科領域） |
| 第 7 回 | 胸部外科 肺癌（外科領域） |
| 第 8 回 | 心臓外科 （外科領域） |
| 第 9 回 | 心臓外科 脈管疾患（外科領域） |
| 第 10 回 | 小テスト |
| 第 11 回 | 消化器外科 食道。胃十二指腸・大腸疾患 |
| 第 12 回 | 消化器外科 肝胆膵（外科領域） |
| 第 13 回 | 消化器外科 その他の腹部外科疾患 |
| 第 14 回 | 小テスト |
| 第 15 回 | まとめ |

2021 年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II 部 | | |
|------|---|------|------------|-----|-----|
| | | 対象学年 | 2 年 | 学 期 | 前 期 |
| 科目名 | 整形外科概論 I | 科目の別 | 講 義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 鈴木伸典 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 整形外科の基礎知識を習得する。 将来、柔道整復の施術に応用可能な技術の理論的背景を理解する。 | | | | |
| 到達目標 | 疾患や手術についての的確に説明できる。 さらに、メディアやネットの医療に関する情報に対して医学的に検証し、 偏見や独善的仮説を排除する姿勢を養う。 | | | | |
| 成績評価 | 定期試験：4 択試験、80 点満点、 日常「おさらい問題」得点（最高 20 点）を併せて 60 点以上の得点で単位認定 | | | | |
| 使用教材 | 整形外科：南江堂 柔道整復学 理論編：南江堂 | | | | |
| 留意点 | | | | | |

| 回 数 | 授業計画 |
|--------|--------------------|
| 第 1 回 | 骨の基礎知識 |
| 第 2 回 | リモデリング ビタミン D 骨軟化 |
| 第 3 回 | 骨粗鬆症 |
| 第 4 回 | 骨折治癒過程・合併症 |
| 第 5 回 | 骨髄炎・骨腫瘍 |
| 第 6 回 | 系統的骨疾患 |
| 第 7 回 | 関節の基礎知識 |
| 第 8 回 | 関節の感染症 結核性関節炎 |
| 第 9 回 | 関節リウマチ： 病態・診断・治療法 |
| 第 10 回 | 変形性関節症 1 |
| 第 11 回 | 変形性関節症 2 |
| 第 12 回 | 骨端症・循環障害 非感染性関節疾患 |
| 第 13 回 | 発育性股関節形成不全・離断性骨軟骨炎 |
| 第 14 回 | 骨格異常足趾の変形 |
| 第 15 回 | 遺伝の話題 |

2021 年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II 部 | | |
|------|---|------|------------|-----|-----|
| | | 対象学年 | 2 年 | 学 期 | 後 期 |
| 科目名 | 整形外科概論 II | 科目の別 | 講 義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 鈴木伸典 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 整形外科の基礎知識を習得する。 将来、柔道整復の施術に応用可能な技術の理論的背景を理解する。 | | | | |
| 到達目標 | 疾患や手術についての的確に説明できる。 さらに、メディアやネットの医療に関する情報に対して医学的に検証し、 偏見や独善的仮説を排除する姿勢を養う。 | | | | |
| 成績評価 | 定期試験：4 択試験、80 点満点、 日常「おさらい問題」得点（最高 20 点）を併せて 60 点以上の得点で単位認定 | | | | |
| 使用教材 | 整形外科：南江堂 柔道整復学 理論編：南江堂 | | | | |
| 留意点 | | | | | |

| 回 数 | 授業計画 |
|--------|------------------------------|
| 第 1 回 | 骨格筋の基礎知識 筋膜 |
| 第 2 回 | 筋肉疾患 : 進行性筋ジストロフィー・筋断裂 |
| 第 3 回 | 靭帯・腱の基礎知識 |
| 第 4 回 | 腱鞘炎 ・ 腱断裂 |
| 第 5 回 | 神経の基礎知識 神経麻痺 |
| 第 6 回 | 絞扼性神経障害：橈骨神経麻痺 |
| 第 7 回 | 正中神経麻痺・尺骨神経麻痺 |
| 第 8 回 | 腕神経叢疾患 : 胸郭出口症候群 分娩麻痺 引き抜き損傷 |
| 第 9 回 | 絞扼性神経障害（下肢） |
| 第 10 回 | 椎間板ヘルニア |
| 第 11 回 | 脊柱管狭窄症 |
| 第 12 回 | 脊髄損傷： 概念・診断・リハビリテーション |
| 第 13 回 | 脊髄疾患 脊髄腫瘍 |
| 第 14 回 | 脳性麻痺 歩行障害 |
| 第 15 回 | 湿布の薬理 : NSAIDs |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|---|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 2年 | 学期 | 前期 |
| 科目名 | リハビリテーション概論 I | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 鵜飼建志 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | リハビリテーションの一分野である「リハビリテーション医学」の概要を知る。主な疾患の概要、及び評価方法と治療方法について学ぶ。教科書を中心に講義を進めるが、より理解を深め、臨床力をつけるための補足説明も加える。 | | | | |
| 到達目標 | リハビリテーション医学の概要、治療対象を知る。 主な疾患の概要、及び評価方法と治療方法について説明できる。 講義を通し、柔道整復師にとって必要な医療人としての一般常識、専門知識の基礎、倫理観などを知る。 | | | | |
| 成績評価 | 定期試験の結果 90%（小テストを行った場合はここに加味する） 出席状況 10% 受講態度が悪いなど将来の患者に不利益を生じる可能性が高い、と判断した場合は警告し、反省・改善が見られなければ減点対象とする。 | | | | |
| 使用教材 | リハビリテーション医学：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 | | | | |
| 留意点 | 講義態度は、医療人としての責任感・倫理観について重視する。 再三再四の指導にも講義態度に改善が見られない場合には、定期試験を待たずに単位を認めない場合もある。定期試験の成績によっては再試験が受けられない可能性がある。 | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|----------------------------------|
| 第1回 | 講義概要、リハビリテーションの概念 |
| 第2回 | リハビリテーション医学 |
| 第3回 | リハビリテーション医学の基礎医学（運動学と機能解剖） |
| 第4回 | リハビリテーション医学の基礎医学（運動学と機能解剖） |
| 第5回 | リハビリテーション医学の基礎医学（障害学） |
| 第6回 | リハビリテーション医学の基礎医学（治療学） |
| 第7回 | リハ医学の評価と診断（A. 患者の捉え方、B. 身体計測） |
| 第8回 | リハ医学の評価と診断（C. 関節可動域測定法～） |
| 第9回 | リハ医学の評価と診断（D. E. F） |
| 第10回 | リハ医学の評価と診断（G. 小児の評価法、H. 協調性テスト） |
| 第11回 | リハ医学の評価と診断（H. 失認と失行の評価法、J. 心理評価） |
| 第12回 | リハ医学の評価と診断（K. L. M） |
| 第13回 | リハビリテーションの治療（A 理学療法-1 運動療法） |
| 第14回 | リハビリテーションの治療（A-2 物理療法） |
| 第15回 | リハビリテーションの治療（A-3 牽引、マッサージ他） |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|---|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 2年 | 学期 | 後期 |
| 科目名 | リハビリテーション概論II | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 鵜飼建志 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | リハビリテーションの一分野である「リハビリテーション医学」の概要を知る。主な疾患の概要、及び評価方法と治療方法について学ぶ。教科書を中心に講義を進めるが、より理解を深め、臨床力をつけるための補足説明も加える。 | | | | |
| 到達目標 | リハビリテーション医学の概要、治療対象を知る。 主な疾患の概要、及び評価方法と治療方法について説明できる。 講義を通し柔道整復師にとって必要な医療人としての一般常識、専門知識の基礎、倫理観などを知る。 | | | | |
| 成績評価 | 定期試験の結果 90%（小テストを行った場合はここに加味する） 出席状況 10% 受講態度が悪いなど将来の患者に不利益を生じる可能性が高い、と判断した場合は警告し、反省・改善が見られなければ減点対象とする。 | | | | |
| 使用教材 | リハビリテーション医学：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 | | | | |
| 留意点 | 講義態度は、医療人としての責任感・倫理観について重視する。 再三再四の指導にも講義態度に改善が見られない場合には、定期試験を待たずに単位を認めない場合もある。定期試験の成績によっては再試験が受けられない可能性がある。 | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|--------------------------------------|
| 第1回 | リハビリテーションの治療 (B 作業療法) |
| 第2回 | リハビリテーションの治療 (C 補装具-1 装具) |
| 第3回 | リハビリテーションの治療 (C 補装具-2 義肢) |
| 第4回 | リハビリテーションの治療 (C 補装具-3 移動補助具 -4 自助具他) |
| 第5回 | リハビリテーションの治療 (D 言語治療) |
| 第6回 | リハ医学と関連職種、リハの実際 A 脳卒中-1 分類と特徴 |
| 第7回 | リハの実際 A 脳卒中-2 障害-3 リハ |
| 第8回 | リハの実際 B 脊髄損傷 |
| 第9回 | リハの実際 C 小児疾患 5-7, D 切断 |
| 第10回 | リハの実際 D 切断 E 末梢神経損傷 |
| 第11回 | リハの実際 F 関節リウマチ |
| 第12回 | リハの実際 G 整形外科疾患 |
| 第13回 | リハの実際 H 心疾患 I 呼吸器疾患 |
| 第14回 | リハの実際 J 老人のリハビリテーション |
| 第15回 | リハビリテーションと福祉 |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|--|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 3年 | 学期 | 後期 |
| 科目名 | 一般臨床医学Ⅳ | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 2 |
| 担当教員 | 皿袋 良直 | 実務経験 | 無 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 柔道整復師として自分の力量と限界をわきまえながら、救急現場や他の場面で適切に病態把握をして対処する方法を確認する。損傷に類似した症状を示す疾患の病態把握と治療法・対処法などを学習する。 | | | | |
| 到達目標 | 既に学んでいる知識を整理し定着させ応用できる能力を向上させることを目標にする。 | | | | |
| 成績評価 | 小テストおよび授業態度などを総合して評価する。 | | | | |
| 使用教材 | 関連する教科書および他の資料など。 | | | | |
| 留意点 | 90分の授業で学生の集中力を維持するために、色々な内容を準備する。 また、国家試験が近づいているため内容によっては関連する過去問を取り上げながら可能な範囲で解説していく。 | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|----------------------|
| 第1回 | 1 柔道整復術の適否を考える |
| 第2回 | 2 損傷に類似した症状を示す疾患 (1) |
| 第3回 | 3 損傷に類似した症状を示す疾患 (2) |
| 第4回 | 4 損傷に類似した症状を示す疾患 (3) |
| 第5回 | 5 血流障害を伴う損傷 |
| 第6回 | 6 末梢神経損傷を伴う損傷 |
| 第7回 | 7 脱臼骨折 |
| 第8回 | 8 外出血を伴う損傷 |
| 第9回 | 9 病的骨折および脱臼 |
| 第10回 | 10 意識障害を伴う損傷 |
| 第11回 | 11 脊髄症状のある損傷 |
| 第12回 | 12 呼吸運動障害を伴う損傷 |
| 第13回 | 13 内臓損傷の合併が疑われる損傷 |
| 第14回 | 14 高エネルギー外傷 |
| 第15回 | 15 まとめ |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|---|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 3年 | 学期 | 前期 |
| 科目名 | 衛生学・公衆衛生学 I | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 皿袋 良直 | 実務経験 | 無 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 疾病の発症に関わる様々な社会・環境要因についての理解を深め、疾病の一次予防、二次予防、三次予防に必要な諸条件の整備について考察・実践するために必要な知識を習得することを目標にする。 | | | | |
| 到達目標 | 社会・環境要因は人の一生を軸にした見方と、人の生活、労働などの活動の場を軸にした見方で整理し、人の健康と環境との関係性を評価するための科学的理論である疫学的方法論や様々な行政資料の意義とその利用法について学び、データから新たな知見を見いだすことができる独創力を養う。 | | | | |
| 成績評価 | 定期試験 50% 小テスト 2回 50% 参加度 授業に取り組む学習態度として遅刻・欠席および授業の進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。 | | | | |
| 使用教材 | 衛生学・公衆衛生学：公益法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 国家試験過去問題集 | | | | |
| 留意点 | 衛生学・公衆衛生学は学際的な基礎科目であり、人の健康増進に寄与するすべての専門職（医療系、栄養系、環境系）は資格の種類にかかわらず学んでおくことが要求される共通分野である。 | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|---------------------------|
| 第1回 | 衛生学・公衆衛生学の歴史 |
| 第2回 | 健康の概念 |
| 第3回 | 健康指標 |
| 第4回 | 疾病予防・健康管理 |
| 第5回 | 感染症 |
| 第6回 | 感染症予防対策 |
| 第7回 | 消毒法の分類と実践 |
| 第8回 | 第1回～第7回まとめ（第一回小テストおよび解説） |
| 第9回 | 環境保健1 |
| 第10回 | 環境保健2 |
| 第11回 | 生活環境 |
| 第12回 | 食品衛生1 |
| 第13回 | 食品衛生2・廃棄物 |
| 第14回 | 母子保健 |
| 第15回 | 第9回～第14回まとめ（第二回小テストおよび解説） |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|---|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 3年 | 学期 | 後期 |
| 科目名 | 衛生学・公衆衛生学Ⅱ | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 皿袋 良直 | 実務経験 | 無 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 疾病の発症に関わる様々な社会・環境要因についての理解を深め、疾病の一次予防、二次予防、三次予防に必要な諸条件の整備について考察・実践するために必要な知識を習得することを目標にする。 | | | | |
| 到達目標 | 社会・環境要因は人の一生を軸にした見方と、人の生活、労働などの活動の場を軸にした見方で整理し、人の健康と環境との関係性を評価するための科学的理論である疫学的方法論や様々な行政資料の意義とその利用法について学び、データから新たな知見を見いだすことができる独創力を養う。 | | | | |
| 成績評価 | 定期試験 50% 小テスト 2回 50% 参加度 授業に取り組む学習態度として遅刻・欠席および授業の進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。 | | | | |
| 使用教材 | 衛生学・公衆衛生学：公益法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 国家試験過去問題集 | | | | |
| 留意点 | 衛生学・公衆衛生学は学際的な基礎科目であり、人の健康増進に寄与するすべての専門職（医療系、栄養系、環境系）は資格の種類にかかわらず学んでおくことが要求される共通分野である。 | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|---------------------------|
| 第1回 | 学校保健 |
| 第2回 | 産業保健1 |
| 第3回 | 産業保健2 |
| 第4回 | 成人保健1 |
| 第5回 | 成人保健2・高齢者保健 |
| 第6回 | 精神保健 |
| 第7回 | 第1回～第6回まとめ（第一回小テストおよび解説） |
| 第8回 | 地域保健1 |
| 第9回 | 地域保健2・国際保健 |
| 第10回 | 衛生行政 |
| 第11回 | 保健医療制度 |
| 第12回 | 疫学1 |
| 第13回 | 疫学2 |
| 第14回 | 第8回～第13回まとめ（第二回小テストおよび解説） |
| 第15回 | 医の倫理と安全確保、まとめ、練習問題 |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|---|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 1年 | 学期 | 後期 |
| 科目名 | 医療概論 | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 2 |
| 担当教員 | 遠山 治孝 | 実務経験 | ○・無 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 医療人を志す者であるという自覚と、患者と接する際に必要となる最低限の倫理観やマナーを考える力を養う。 | | | | |
| 到達目標 | 患者との信頼関係を築き、柔道整復業を全うするうえで「やっていいこと」と「やってはいけないこと」の分別がつけられる。 | | | | |
| 成績評価 | 定期試験 100% 授業進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。 | | | | |
| 使用教材 | 「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」 必要に応じてプリントを配布する | | | | |
| 留意点 | 30時間のうち、15時間は「職業倫理」に関する授業を行う。 | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション (学習方法、評価方法等) |
| 第2回 | 職業倫理① 柔道整復師にもとめられる職業倫理 |
| 第3回 | 職業倫理② 柔道整復師の歴史と業務範囲 |
| 第4回 | 職業倫理③ 柔道整復の療養費制度 |
| 第5回 | 職業倫理④ 施術録の記載方法、保存義務 |
| 第6回 | 職業倫理⑤ 守秘義務、個人情報保護 |
| 第7回 | 職業倫理⑥ 各種ハラスメント |
| 第8回 | 職業倫理⑦ インフォームドコンセント |
| 第9回 | 職業倫理⑧ エビデンスに基づいた施術 |
| 第10回 | 職業倫理⑨ 患者の権利 |
| 第11回 | 医学と医療の歴史① |
| 第12回 | 医学と医療の歴史② |
| 第13回 | 医学と医療の歴史③ |
| 第14回 | 医学と医療の歴史④ |
| 第15回 | 総復習 |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|--|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 3年 | 学期 | 前期 |
| 科目名 | 関係法規 | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 太田 康晴 | 実務経験 | 有・無 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 柔道整復師として必要な保険医療制度と関係法規について学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | 柔道整復師に関連する法律の知識の習得。 | | | | |
| 成績評価 | 小テスト 50% 定期試験 50% 参加度 欠席および授業の進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。 再試験の評価については、その試験のみで評価する。 | | | | |
| 使用教材 | 関係法規：社団法人全国柔道整復学校協会 医歯薬出版株式会社 | | | | |
| 留意点 | 関係法規は柔道整復師の身分を定める法律を含め学ぶため皆勤が望ましい。 | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|----------------------|
| 第1回 | 法の意義、体系 |
| 第2回 | 患者の権利、医療過誤とリスクマネジメント |
| 第3回 | 柔道整復師法：目的、定義 |
| 第4回 | 柔道整復師法：免許、国家試験 |
| 第5回 | 柔道整復師法：業務 |
| 第6回 | 柔道整復師法：施術所 |
| 第7回 | 柔道整復師法：雑則、罰則 |
| 第8回 | 医療関係法規 |
| 第9回 | 医療関係法規 |
| 第10回 | 医療法 |
| 第11回 | 医療法 |
| 第12回 | 社会福祉関係法規 |
| 第13回 | 社会保険関係法規 |
| 第14回 | 総復習 1 |
| 第15回 | 総復習 2 |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|---|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 1年 | 学期 | 前期 |
| 科目名 | 柔道 I A | 科目の別 | 実技 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 上原伸治 (今尾省司・小出孝典) | 実務経験 | | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 柔道着の着方 礼法 受身 | | | | |
| 到達目標 | 柔道を行うための心構え 柔道着の着方 礼法 受身 複数の投技・固技を身につける | | | | |
| 成績評価 | 1. 定期試験(90%) 2. 出席及び授業態度 | | | | |
| 使用教材 | 柔道(全国高等学校体育連盟柔道部編纂) | | | | |
| 留意点 | ピアス、指輪、付け爪等は危険なため原則禁止とする。 | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|-----------------|
| 第1回 | 柔道の説明 |
| 第2回 | 礼法 受身 補強運動 |
| 第3回 | 後方受身 |
| 第4回 | 後方受身(立位から倒れこんで) |
| 第5回 | 側方受身(動きながら) |
| 第6回 | 前方受身 |
| 第7回 | 前回り受身(膝付) |
| 第8回 | 前回り受身(立位) |
| 第9回 | 支釣込足 |
| 第10回 | 体落 |
| 第11回 | 大腰 |
| 第12回 | 大外刈 |
| 第13回 | 移動打ち込み |
| 第14回 | 投げ込み |
| 第15回 | 移動投げ込み |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|---|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 1年 | 学期 | 後期 |
| 科目名 | 柔道 I B | 科目の別 | 実技 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 上原伸治 (今尾省司・小出孝典) | 実務経験 | | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 柔道着の着方 礼法 受身 | | | | |
| 到達目標 | 柔道を行うための心構え 柔道着の着方 礼法 受身 複数の投技・固技を身につける | | | | |
| 成績評価 | 1. 定期試験(90%) 2. 出席及び授業態度 | | | | |
| 使用教材 | 柔道(全国高等学校体育連盟柔道部編纂) | | | | |
| 留意点 | ピアス、指輪、付け爪等は危険なため原則禁止とする。 | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|--------------------------|
| 第1回 | 寝技 袈裟固 立技 打ち込み・投げ込み |
| 第2回 | 寝技 横四方固 立技 打ち込み・投げ込み |
| 第3回 | 寝技 上四方固 立技 打ち込み・投げ込み |
| 第4回 | 寝技 縦四方固 立技 打ち込み・投げ込み |
| 第5回 | 寝技 乱取り 立技 打ち込み・投げ込み |
| 第6回 | 寝技 乱取り 立技 打ち込み・投げ込み |
| 第7回 | 寝技 乱取り 立技 打ち込み・投げ込み |
| 第8回 | 寝技 乱取り 立技 打ち込み・投げ込み |
| 第9回 | 寝技 乱取り 立技 移動しながら崩しを意識する。 |
| 第10回 | 寝技 乱取り 立技 移動しながら崩しを意識する。 |
| 第11回 | 寝技 乱取り 立技 移動しながら崩しを意識する。 |
| 第12回 | 寝技 乱取り 立技 得意な技への連携 |
| 第13回 | 寝技 乱取り 立技 得意な技への連携 |
| 第14回 | 寝技 乱取り 立技 得意な技への連携 |
| 第15回 | 寝技 乱取り 立技 得意な技への連携 |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|--|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 2年 | 学期 | 前期 |
| 科目名 | 柔道IIA | 科目の別 | 実技 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 上原伸治 (小出孝典) | 実務経験 | | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 柔道整復師として必要な柔道の素養を身につける。 | | | | |
| 到達目標 | 認定実技採点基準に準じた礼法、受け身を行うことができる。 十分な速度、勢いのある約束乱取りを行うことができる。 基本的な柔道に関する歴史・ルールを説明することができる。 | | | | |
| 成績評価 | 1. 定期試験(80%) 2. 筆記試験(10%) 3. 出席及び授業態度(10%) | | | | |
| 使用教材 | 柔道(全国高等学校体育連盟柔道部編纂) | | | | |
| 留意点 | ピアス、指輪、付け爪等は危険なため原則禁止とする。 | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 立技 1年次の復習 大内刈 |
| 第3回 | 立技 1年次の復習 払腰 |
| 第4回 | 立技 1年次の復習 小内刈 |
| 第5回 | 立技 大内刈 払腰 小内刈の復習 |
| 第6回 | 立技 小外刈 |
| 第7回 | 立技 出足払 |
| 第8回 | 立技 背負投 |
| 第9回 | 立技 約束乱取り |
| 第10回 | 立技 約束乱取り |
| 第11回 | 立技 約束乱取り |
| 第12回 | 立技 約束乱取り |
| 第13回 | 立技 約束乱取り |
| 第14回 | 立技 約束乱取り |
| 第15回 | 立技 約束乱取り |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|--|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 2年 | 学期 | 後期 |
| 科目名 | 柔道 II B | 科目の別 | 実技 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 上原伸治 (小出孝典) | 実務経験 | | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 柔道整復師として必要な柔道の素養を身につける。 | | | | |
| 到達目標 | 認定実技採点基準に準じた礼法、受け身を行うことができる。 十分な速度、勢いのある約束乱取りを行うことができる。 基本的な柔道に関する歴史・ルールを説明することができる。 | | | | |
| 成績評価 | 1. 定期試験(80%) 2. 筆記試験(10%) 3. 出席及び授業態度(10%) | | | | |
| 使用教材 | 柔道(全国高等学校体育連盟柔道部編纂) | | | | |
| 留意点 | ピアス、指輪、付け爪等は危険なため原則禁止とする。 | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|------------------------|
| 第1回 | 立技 約束乱取り 寝技 乱取り 柔道の歴史 |
| 第2回 | 立技 約束乱取り 寝技 乱取り |
| 第3回 | 立技 約束乱取り 寝技 乱取り |
| 第4回 | 立技 約束乱取り 寝技 乱取り |
| 第5回 | 立技 約束乱取り 寝技 乱取り |
| 第6回 | 立技 約束乱取り 寝技 乱取り |
| 第7回 | 立技 約束乱取り 寝技 乱取り |
| 第8回 | 立技 約束乱取り 寝技 乱取り 柔道のルール |
| 第9回 | 立技 約束乱取り 寝技 乱取り |
| 第10回 | 立技 約束乱取り 寝技 乱取り |
| 第11回 | 立技 約束乱取り 寝技 乱取り |
| 第12回 | 立技 約束乱取り 寝技 乱取り |
| 第13回 | 立技 約束乱取り 寝技 乱取り |
| 第14回 | 立技 約束乱取り 寝技 乱取り |
| 第15回 | 立技 約束乱取り 寝技 乱取り |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|--|------|-----------|-----|-----|
| | | 対象学年 | 3年生 | 学 期 | 通 年 |
| 科目名 | 柔道Ⅲ | 科目の別 | 実 技 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 丹羽十堂 今尾省司 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 45 |
| 学修内容 | 礼法、受身、約束乱取の習得、投の形(手技、腰技、足技)の習得、試験形式 | | | | |
| 到達目標 | 認定実技審査合格レベルに到達する | | | | |
| 成績評価 | 1. 認定実技模擬審査(50%) 2. 3回の小テスト(各10% 計30%) 3. 出席及び授業態度(20%) ※3年間で筆記のみ合格し、実技試験に合格していない者は単位取得を認めない。 | | | | |
| 使用教材 | 柔道(全国高等学校体育連盟柔道部編纂) 講道館柔道 DVD シリーズ第3作「投の形」(財団法人講道館) | | | | |
| 留意点 | 見学者は授業中にレポートを書いて提出することにより出席とすることもある | | | | |

| 回 数 | 授業計画 | 回 数 | 授業計画 |
|------|--------------------|------|------------------|
| 第1回 | 礼法の確認、受身、寝技、立技 | 第16回 | 受身、投の形(足技)、小テスト③ |
| 第2回 | 受身、寝技、立技、投の形(浮落) | 第17回 | 認定実技の流れ、練習 |
| 第3回 | 受身、寝技、立技、投の形(背負投) | 第18回 | 認定実技の練習 |
| 第4回 | 受身、寝技、立技、投の形(肩車) | 第19回 | 認定実技の練習 |
| 第5回 | 受身、寝技、立技、投の形(手技) | 第20回 | 認定実技の練習 |
| 第6回 | 受身、投の形(手技)、小テスト① | 第21回 | 認定実技の練習 |
| 第7回 | 受身、寝技、立技、投の形(浮腰) | 第22回 | 認定実技模擬試験の反省、練習 |
| 第8回 | 受身、寝技、立技、投の形(払腰) | 第23回 | 認定実技の練習 |
| 第9回 | 受身、寝技、立技、投の形(釣込腰) | 第24回 | 認定実技最終確認、練習 |
| 第10回 | 受身、寝技、立技、投の形(腰技) | | |
| 第11回 | 受身、投の形(腰技)、小テスト② | | |
| 第12回 | 受身、寝技、立技、投の形(送足払) | | |
| 第13回 | 受身、寝技、立技、投の形(支釣込足) | | |
| 第14回 | 受身、約束乱取、投の形(内股) | | |
| 第15回 | 受身、約束乱取、投の形(足技) | | |

2021 年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II 部 | | |
|------|--|------|------------|-----|-------|
| | | 対象学年 | 1 年 | 学 期 | 前 期 |
| 科目名 | 柔道整復学 総論 I A | 科目の別 | 講 義 | 単位数 | 1 単位 |
| 担当教員 | 愛知 秀一 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30 時間 |
| 学修内容 | 柔道整復師に必要な柔道整復理論、特に骨折総論の知識を修得する。 実際に臨床現場で骨折治療にあたるための基礎知識を得る。 2 年次の柔道整復理論（各論）を理解するための基礎知識を身につける。 | | | | |
| 到達目標 | 骨の解剖学的特徴と骨折の定義、分類について説明することができる。 骨折の鑑別、合併症など臨床現場における判断基準について説明することができる。 骨折の治療、指導管理について説明することができる。 骨折修復過程を理解することで、徒手整復の原則、基本的方法を列挙できる。 | | | | |
| 成績評価 | 定期試験によって評価を行う 欠席 1 回につき 5 点減点 但し、授業内容をレポートにて提出した場合はこの限りでない | | | | |
| 使用教材 | 柔道整復学（理論編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 柔道整復学（実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 | | | | |
| 留意点 | | | | | |

| 回 数 | 授業計画 |
|--------|--------------------------|
| 第 1 回 | ガイダンス（評価方法の説明） |
| 第 2 回 | 骨の説明 |
| 第 3 回 | 運動器の概説 |
| 第 4 回 | 損傷時に加わる力（急性、亜急性を含む） |
| 第 5 回 | 骨折概説 骨の形態と機能 |
| 第 6 回 | 骨損傷に加わる力 |
| 第 7 回 | 骨損傷の分類概説 |
| 第 8 回 | 骨の性状による分類 |
| 第 9 回 | 骨損傷に程度による分類 |
| 第 10 回 | 骨折線の方向による分類 |
| 第 11 回 | 骨折数による分類 |
| 第 12 回 | 骨折部と外創との交通の有無による分類 |
| 第 13 回 | 外力の働いた部位による分類・外力の働きによる分類 |
| 第 14 回 | 外力の働きによる分類 |
| 第 15 回 | 骨折の部位による分類 |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|--|------|-----------|-----|------|
| | | 対象学年 | 1年 | 学期 | 後期 |
| 科目名 | 柔道整復学 総論 IB | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 1単位 |
| 担当教員 | 愛知 秀一 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30時間 |
| 学修内容 | 柔道整復師に必要な柔道整復理論、特に骨折総論の知識を修得する。 実際に臨床現場で骨折治療にあたるための基礎知識を得る。 2年次の柔道整復理論（各論）を理解するための基礎知識を身につける。 | | | | |
| 到達目標 | 骨の解剖学的特徴と骨折の定義、分類について説明することができる。 骨折の鑑別、合併症など臨床現場における判断基準について説明することができる。 骨折の治療、指導管理について説明することができる。 骨折修復過程を理解することで、徒手整復の原則、基本的方法を列挙できる。 | | | | |
| 成績評価 | 定期試験によって評価を行う 欠席1回につき5点減点 但し、授業内容をレポートにて提出した場合はこの限りでない | | | | |
| 使用教材 | 柔道整復学（理論編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 柔道整復学（実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 | | | | |
| 留意点 | | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|------------------------|
| 第1回 | 骨損傷の症状・局所症状 |
| 第2回 | 骨損傷の症状・全身症状 |
| 第3回 | 骨損傷の合併症概説 |
| 第4回 | 併発症について |
| 第5回 | 続発症について |
| 第6回 | 後遺症について 過剰仮骨形成 偽関節について |
| 第7回 | 変形治癒 骨萎縮について |
| 第8回 | 無腐性骨壊死 関節運動障害について |
| 第9回 | 外傷性骨化性筋炎 フォルクマン拘縮について |
| 第10回 | 小児骨損傷について |
| 第11回 | ソルターハリスについて 高齢者骨損傷について |
| 第12回 | 骨折の治癒経過について 骨損傷の予後について |
| 第13回 | 骨損傷の治癒に影響を与える因子について |
| 第14回 | 骨折の整復法 |
| 第15回 | 痛みの基礎 評価 |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|--|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 1年 | 学期 | 前期 |
| 科目名 | 柔道整復学 総論ⅡA | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 高橋 亮 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 関節損傷（脱臼・軟損）総論について学ぶ | | | | |
| 到達目標 | 各関節の解剖学的特徴を説明することができる 脱臼の定義、分類について説明することができる 脱臼の整復法の原則が説明できる | | | | |
| 成績評価 | 定期試験 70%、小テスト 30% | | | | |
| 使用教材 | 柔道整復学（理論編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 プリントを作成し、配布する | | | | |
| 留意点 | ※欠席は極力控えるよう喚起する ※授業や試験には、医療人としての適切な態度で臨むように指導する | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 関節の形態と機能 |
| 第3回 | 関節構成組織の形態と機能 |
| 第4回 | 肩関節、肩鎖関節、胸鎖関節の形態 |
| 第5回 | 肘関節の形態 |
| 第6回 | 手関節、指関節の形態 |
| 第7回 | 股関節の形態 |
| 第8回 | 膝関節の形態 |
| 第9回 | 足関節の形態 |
| 第10回 | 関節損傷の概説 |
| 第11回 | 靭帯損傷 |
| 第12回 | 関節軟骨損傷 軟骨損傷の治癒機序 |
| 第13回 | 脱臼 定義と概説 |
| 第14回 | 脱臼 分類・症状 |
| 第15回 | 脱臼 合併症・予後 |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|---|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 1年 | 学期 | 後期 |
| 科目名 | 柔道整復学 総論ⅡB | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 高橋 亮 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 軟部組織損傷（筋・腱・神経損傷）総論について学ぶ | | | | |
| 到達目標 | 筋・腱・神経の解剖学的特徴を説明することができる 各損傷の定義、分類について説明することができる 治療法の原則が説明できる | | | | |
| 成績評価 | 定期試験 70%、小テスト 30% | | | | |
| 使用教材 | 柔道整復学（理論編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 プリントを作成し、配布する | | | | |
| 留意点 | ※欠席は極力控えるよう喚起する ※授業や試験には、医療人としての適切な態度で臨むように指導する | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|-------------------|
| 第1回 | 筋の形態と機能 |
| 第2回 | 筋の形態と機能 |
| 第3回 | 筋の形態と機能 |
| 第4回 | 筋損傷の分類 |
| 第5回 | 筋損傷の分類 |
| 第6回 | 腱の形態と機能 腱損傷の分類 |
| 第7回 | 神経の形態と機能 |
| 第8回 | 神経の形態と機能 |
| 第9回 | 神経の形態と機能 神経損傷の概説 |
| 第10回 | 血管系の形態と機能 |
| 第11回 | 血管系の形態と機能 血管損傷の症状 |
| 第12回 | 関節損傷 治療法 |
| 第13回 | 関節損傷 治療法 |
| 第14回 | 後療法 |
| 第15回 | 復習 |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|---|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 1年 | 学期 | 前期 |
| 科目名 | 柔道整復学 総論ⅢA | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 太田 康晴 | 実務経験 | 有・無 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 柔道整復師が施術を行う際に必要な人体の構造と機能の知識を習得する。 | | | | |
| 到達目標 | 内部環境の恒常性について専門用語を用いて説明できる。 神経系・内分泌系について専門用語を用いて説明できる。 骨格筋収縮について専門用語を用いて説明できる。 | | | | |
| 成績評価 | 小テスト、レポート 【30%】 期末試験 【70%】 | | | | |
| 使用教材 | 柔道整復学・理論編（南江堂） 生理学（南江堂） 解剖学（医歯薬出版株式会社） | | | | |
| 留意点 | 授業時間内に正しい理解ができているか確認する時間を設けますので積極的に参加して下さい。 | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|-------------------------|
| 第1回 | 内部環境の恒常性 |
| 第2回 | 物質の移動（拡散、浸透、ろ過） |
| 第3回 | 体内の命令の伝達手段（神経系、内分泌系の比較） |
| 第4回 | 骨格筋、心筋、神経の静止膜電位 |
| 第5回 | 骨格筋、心筋、神経の活動電位 |
| 第6回 | 感覚受容器の特徴 |
| 第7回 | 骨格筋細胞の構造 |
| 第8回 | 骨格筋収縮の仕組み |
| 第9回 | 骨格筋の異常 |
| 第10回 | 神経系の特徴 |
| 第11回 | 神経伝導路（遠心性） |
| 第12回 | 神経伝導路（求心性） |
| 第13回 | 内部環境の恒常性に対する神経系の役割 |
| 第14回 | 内分泌系の特徴 |
| 第15回 | 内部環境の恒常性に対する内分泌系の役割 |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|---|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 1年 | 学期 | 後期 |
| 科目名 | 柔道整復学 総論ⅢB | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 太田 康晴 | 実務経験 | 有・無 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 柔道整復師が施術を行う際に必要な人体の構造と機能の知識を習得する。 | | | | |
| 到達目標 | 各器官における神経系の役割について専門用語を用いて説明できる。 各器官における内分泌系の役割について専門用語を用いて説明できる。 人体を観察し骨・筋の名称について専門用語を用いて説明できる。 | | | | |
| 成績評価 | 小テスト、レポート【30%】 期末試験【70%】 | | | | |
| 使用教材 | 柔道整復学・理論編（南江堂） 生理学（南江堂） 解剖学（医歯薬出版株式会社） | | | | |
| 留意点 | 授業時間内に正しい理解ができているか確認する時間を設けますので積極的に参加して下さい。 | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|----------------------------|
| 第1回 | 循環器系に対する神経系の役割 【筋・骨格小テスト】 |
| 第2回 | 循環器系に対する内分泌系の役割 【筋・骨格小テスト】 |
| 第3回 | 呼吸器系に対する神経系の役割 【筋・骨格小テスト】 |
| 第4回 | 呼吸器系に対する内分泌系の役割 【筋・骨格小テスト】 |
| 第5回 | 消化器系に対する神経系の役割 【筋・骨格小テスト】 |
| 第6回 | 消化器系に対する内分泌系の役割 【筋・骨格小テスト】 |
| 第7回 | 泌尿器系に対する神経系の役割 【筋・骨格小テスト】 |
| 第8回 | 泌尿器系に対する内分泌系の役割 【筋・骨格小テスト】 |
| 第9回 | 体温調節における神経系の役割 【筋・骨格小テスト】 |
| 第10回 | 体温調節における内分泌系の役割 【筋・骨格小テスト】 |
| 第11回 | 肩甲帯・上腕の体表解剖 |
| 第12回 | 前腕・手部の体表解剖 |
| 第13回 | 股関節・大腿の体表解剖 |
| 第14回 | 膝関節・足部の体表解剖 |
| 第15回 | エコーによる観察 |

2021年度 授業計画

| | | | | | |
|------|--|------|-----------|-----|----|
| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
| | | 対象学年 | 2年 | 学期 | 前期 |
| 科目名 | 柔道整復学 演習 I | 科目の別 | 演習 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 太田 康晴 | 実務経験 | 有・無 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 柔道整復に必要な人体の機能について修得する。 | | | | |
| 到達目標 | 病理学・一般臨床医学を理解するために必要となる人体の正常な機能を理解する。 | | | | |
| 成績評価 | 小テスト【50%】 期末試験【50%】 | | | | |
| 使用教材 | 柔道整復学・理論編（南江堂） 生理学（南江堂） 解剖学（医歯薬出版株式会社） | | | | |
| 留意点 | 授業時間内に正しい理解ができているか確認する時間を設けますので積極的に参加して下さい。 | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|------------------------------|
| 第1回 | 物質の移動（拡散、浸透、ろ過）、細胞内液と細胞外液の特徴 |
| 第2回 | 静止膜電位と活動電位 |
| 第3回 | 上行性伝導路と下行性伝導路 |
| 第4回 | 自律神経系 |
| 第5回 | 血液の役割、血液の組成 |
| 第6回 | 免疫機能（免疫系器官、免疫性細胞） |
| 第7回 | 自然免疫と獲得免疫の特徴 |
| 第8回 | 心臓の構造 |
| 第9回 | 心電図 |
| 第10回 | 心周期 |
| 第11回 | 血圧調節 |
| 第12回 | 呼吸器の基本的構造 |
| 第13回 | 換気のしくみ |
| 第14回 | 酸素運搬と二酸化炭素運搬 |
| 第15回 | 呼吸調節のしくみ |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|--|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 3年 | 学期 | 前期 |
| 科目名 | 柔道整復学 演習ⅡA | 科目の別 | 演習 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 木全 健太郎 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 柔道整復に必要な解剖学的知識を修得する。 | | | | |
| 到達目標 | 運動器系・神経系・循環器系について、臨床症状の検討ができること。 内臓系について、柔道整復師国家試験に必要な知識を修得すること。 | | | | |
| 成績評価 | 期末試験 100% | | | | |
| 使用教材 | 解剖学（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・医歯薬出版） コメディカルのための臨床解剖学サブノート 機能解剖で斬る神経系疾患（メディカルプレス） | | | | |
| 留意点 | 学習内容が多いため、講義ごとに復習すること。 | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|-------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 解剖学概説 |
| 第3回 | 運動器系（骨格系） |
| 第4回 | 運動器系（筋系） |
| 第5回 | 末梢神経系（脊髄神経） |
| 第6回 | 循環器系（心臓） |
| 第7回 | 循環器系（動脈系・静脈系、リンパ系、胎児循環） |
| 第8回 | 消化器系（消化管） |
| 第9回 | 消化器系（肝臓・胆嚢・膵臓） |
| 第10回 | 呼吸器系 |
| 第11回 | 泌尿器系 |
| 第12回 | 生殖器系 |
| 第13回 | 内分泌系 |
| 第14回 | 中枢神経系 |
| 第15回 | 末梢神経系（脳神経） |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|--|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 3年 | 学期 | 後期 |
| 科目名 | 柔道整復学 演習ⅡB | 科目の別 | 演習 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 木全 健太郎 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 柔道整復に必要な解剖学的知識を修得する。 | | | | |
| 到達目標 | 運動器系・神経系・循環器系について、臨床症状の検討ができること。 柔道整復師国家試験に必要な知識を修得すること。 | | | | |
| 成績評価 | 期末試験 100% | | | | |
| 使用教材 | 解剖学（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・医歯薬出版） コメディカルのための臨床解剖学サブノート 機能解剖で斬る神経系疾患（メディカルプレス） | | | | |
| 留意点 | 学習内容が多いため、講義ごとに復習すること。 | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|-------------|
| 第1回 | 感覚器系 |
| 第2回 | 体表解剖 |
| 第3回 | 運動器系の問題演習 |
| 第4回 | 循環器系の問題演習 |
| 第5回 | 消化器系の問題演習 |
| 第6回 | 呼吸器系の問題演習 |
| 第7回 | 泌尿器系の問題演習 |
| 第8回 | 生殖器系の問題演習 |
| 第9回 | 内分泌系の問題演習 |
| 第10回 | 中枢神経系の問題演習 |
| 第11回 | 末梢神経系の問題演習 |
| 第12回 | 感覚器系の問題演習 |
| 第13回 | 解剖学全般の問題演習① |
| 第14回 | 解剖学全般の問題演習② |
| 第15回 | 解剖学全般の問題演習③ |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復 II部 | | |
|------|---|------|----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 2年 | 学期 | 前期 |
| 科目名 | 外傷保存療法 | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 太田 康晴 | 実務経験 | 有・無 | 時間数 | 15 |
| 学修内容 | 柔道整復師の業務範囲を理解し外傷に対する施術の実施方法を修得する | | | | |
| 到達目標 | 柔道整復師の業務範囲が説明できる 問診・視診・触診を実施する際の注意事項が説明できる 整復・固定・後療法を実施する際の注意事項が説明できる | | | | |
| 成績評価 | 定期試験【100%】 | | | | |
| 使用教材 | 柔道整復学・実技編 改訂第2版（南江堂） | | | | |
| 留意点 | 臨床に出た際に直結する内容であるため、常に医療従事者としての行動・気配りを意識させ、現場に出た際の留意点を常に意識させながら授業を進める。 | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|-----------------------------|
| 第1回 | 柔道整復業務 |
| 第2回 | 骨折の施術、脱臼の施術、軟部組織損傷の施術 |
| 第3回 | 損傷の診察 |
| 第4回 | 鑑別診断、合併症の有無の判定、治療法に関する情報の提示 |
| 第5回 | 説明と同意、徒手整復、固定法、整復・固定後の確認 |
| 第6回 | 医科との連携、固定期間の検討 |
| 第7回 | 後療法、治癒の判定 |
| 第8回 | 指導管理、予後 |
| 第9回 | |
| 第10回 | |
| 第11回 | |
| 第12回 | |
| 第13回 | |
| 第14回 | |
| 第15回 | |
| | |

2021 年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科Ⅱ部 | | |
|------|---|------|---------|-----|----|
| | | 対象学年 | 2年 | 学 期 | 前期 |
| 科目名 | 柔道整復学 各論ⅠA | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 伊藤 和己 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 柔道整復師に必要な理論、頭部から鎖骨部・肩甲帯損傷の知識を習得する 臨床現場で施術にあたるための基礎知識の習得 | | | | |
| 到達目標 | 頭部・顔面部・鎖骨・肩甲骨損傷の定義分類について説明できる また、評価判定・施療・管理指導について説明が出来るようになる | | | | |
| 成績評価 | 1. 定期試験 2. 授業態度および小実技テスト（理解などを総合的な評価） 3. 出席日数 ※配点比率は、1＝60%、2＝40%、3＝欠席1コマにつき－5点とする 内職も－2点とし3回以降は毎回－5点とする コロナ対策で変更有 | | | | |
| 使用教材 | ・柔道整復学 理論編、実技編、包帯固定学 ・映像・画像（含むインターネット） | | | | |
| 留意点 | 臨床と同じ心構え（清潔感 立ち居振る舞い）で3診・検査判定・整復固定・後療を行い 患者さんの為に的確に行得られるようになるべく、临床上で使える知識を習得できるように | | | | |

| 回 数 | 授業計画 |
|------|---------------------|
| 第1回 | ガイダンス 頭部顔面部 骨解剖 |
| 第2回 | ・頭部顔面部 損傷 |
| 第3回 | ・顎部損傷 |
| 第4回 | 全上 |
| 第5回 | 顎関節脱臼整復法・顎関節症の手技の一例 |
| 第6回 | 鎖骨・肩甲骨 解剖おさらい |
| 第7回 | ・肩甲上腕関節脱臼 |
| 第8回 | 全上 |
| 第9回 | ・肩鎖・胸鎖関節脱臼 |
| 第10回 | 全上 |
| 第11回 | ・鎖骨骨折 |
| 第12回 | 全上 |
| 第13回 | 全上 |
| 第14回 | ・肩甲骨骨折 |
| 第15回 | 全上 |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科Ⅱ部 | | |
|------|---|------|---------|-----|----|
| | | 対象学年 | 2年 | 学 期 | 後期 |
| 科目名 | 柔道整復学 各論ⅠB | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 伊藤 和己 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 柔道整復師に必要な理論、上腕骨骨頭部から上腕骨幹部骨折 肩部から上腕部の軟部組織損傷の知識を習得する 臨床現場で施術にあたるための基礎知識の習得 | | | | |
| 到達目標 | 上腕骨骨折・肩部から上腕中1/3までの軟部組織損傷の定義分類について説明できる また、評価判定・施療・管理指導について説明が出来るようになる | | | | |
| 成績評価 | 1. 定期試験 2. 授業態度および小実技テスト（理解などを総合的な評価） 3. 出席日数 ※配点比率は、1=60%、2=40%、3=欠席1コマにつき-5点とする 内職も-2点とし3回以降は毎回-5点とする | | | | |
| 使用教材 | ・柔道整復学 理論編、実技編、包帯固定学 ・映像・画像（含むインターネット） | | | | |
| 留意点 | 臨床と同じ心構え（清潔感 立ち居振る舞い）で3診・検査判定・整復固定・後療を行い 患者さんの為に的確に行得られるようになるべく、接骨院実習で使える知識を習得できる ようにする | | | | |

| 回 数 | 授業計画 |
|------|--------------------------------------|
| 第1回 | 上腕骨 骨・筋・神経解剖 おさらい |
| 第2回 | ・上腕骨近位端部骨折 骨頭 解剖頸骨折 骨端線離開 |
| 第3回 | 全上 |
| 第4回 | ・上腕骨近位部骨折 外科頸骨折 |
| 第5回 | ・上腕骨骨幹部骨折 |
| 第6回 | 全上 |
| 第7回 | ・実技 肩甲上腕 肩鎖 胸鎖関節脱臼 整復 固定 |
| 第8回 | 全上 |
| 第9回 | ・肩部軟部組織損傷 腱板断裂 |
| 第10回 | 全上 二頭筋腱損傷 |
| 第11回 | 全上 Bennet's 損傷 SLAP 損傷 リトルリーガーズショルダー |
| 第12回 | 全上 肩関節周囲炎 |
| 第13回 | ・神経絞扼障害実技 |
| 第14回 | 肩部から上腕の検査判定法 |
| 第15回 | 全上 |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|--|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 2年 | 学期 | 前期 |
| 科目名 | 柔道整復学 各論ⅡA | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 金森道広 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 肘関節部から手指部の骨折・脱臼・軟部組織損傷に対して、発生機序・整復法・固定法を理解し修得する | | | | |
| 到達目標 | 各損傷の鑑別、合併症など臨床現場における判断基準について説明することができる 各損傷に対して指導管理ができる | | | | |
| 成績評価 | 定期試験 100% | | | | |
| 使用教材 | 柔道整復学【理論編】 社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂） 柔道整復学【実技編】 社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂） 標準整形外科学（南江堂） | | | | |
| 留意点 | 肘関節部から手指部の損傷は臨床現場においても多く、患者に対して適確に施術ができるよう理解・修得が必要である 自分の不利益にならないよう講義は皆勤が望ましい | | | | |

| 回数 | 授業計画 | |
|------|-------------|-----------------------------|
| 第1回 | 肘関節部の損傷 | (機能解剖) |
| 第2回 | 上腕骨遠位部の骨折 | (顆上骨折) |
| 第3回 | 上腕骨遠位部の骨折 | (外顆骨折、内側上顆骨折) |
| 第4回 | 前腕骨近位部の骨折 | (橈骨近位端骨折、肘頭骨折) |
| 第5回 | 肘関節脱臼 | (前腕両骨脱臼) |
| 第6回 | 肘関節脱臼 | (前腕両骨後方脱臼、整復法、固定法)【実技】 |
| 第7回 | 肘関節脱臼 | (橈骨頭単独脱臼、肘内障) |
| 第8回 | 肘関節部の軟部組織損傷 | (靭帯損傷、野球肘、テニス肘、その他) |
| 第9回 | 前腕部の損傷 | (機能解剖) |
| 第10回 | 前腕骨骨幹部骨折 | (橈骨骨幹部骨折、ガレアジ骨折、尺骨骨幹部骨折) |
| 第11回 | 前腕骨骨幹部骨折 | (モンテギア骨折、前腕両骨骨幹部骨折) |
| 第12回 | 前腕部の軟部組織損傷 | (コンパートメント症候群、腱交叉症候群、末梢神経障害) |
| 第13回 | 手関節部の損傷 | (機能解剖) |
| 第14回 | 前腕遠位部の骨折 | (コーレス骨折、スミス骨折) |
| 第15回 | 前腕遠位部の骨折 | (バートン骨折、ショーファー骨折、骨端線離開) |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|---|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 2年 | 学期 | 後期 |
| 科目名 | 柔道整復学 各論ⅡB | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 金森道広 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 肘関節部から手指部の骨折・脱臼・軟部組織損傷に対して、発生機序・整復法・固定法を理解し修得する | | | | |
| 到達目標 | 各損傷の鑑別、合併症など臨床現場における判断基準について説明することができる 各損傷に対して指導管理ができる | | | | |
| 成績評価 | 定期試験 100% | | | | |
| 使用教材 | 柔道整復学【理論編】 社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂） 柔道整復学【実技編】 社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂） 標準整形外科学 （南江堂） | | | | |
| 留意点 | 肘関節部から手指部の損傷は臨床現場においても多く、患者に対して適確に施術ができるよう理解・修得が必用である 自分の不利益にならないよう講義は皆勤が望ましい | | | | |

| 回数 | 授業計画 | |
|------|------------------|---------------------------|
| 第1回 | 前腕遠位部の骨折 | （コーレス骨折の整復法、固定法）【実技】 |
| 第2回 | 手根骨骨折 | （舟状骨骨折） |
| 第3回 | 手根骨骨折 | （三角骨、有鉤骨、豆状骨、その他の骨折） |
| 第4回 | 手関節脱臼 | （遠位橈尺関節脱臼、橈骨手根関節脱臼） |
| 第5回 | 手関節脱臼 | （月状骨および月状骨周囲脱臼） |
| 第6回 | 手関節部の軟部組織損傷 | （TFCC、ド・ケルバン病、末梢神経障害、その他） |
| 第7回 | 手指部の損傷 | （機能解剖） |
| 第8回 | 中手骨骨折 | （骨頭骨折、頸部骨折、骨幹部骨折、基部骨折） |
| 第9回 | 手根中手関節脱臼 | （第1CM、第2～第5CM） |
| 第10回 | 指骨骨折 | （基節骨骨折） |
| 第11回 | 指骨骨折 | （中節骨骨折） |
| 第12回 | 指骨骨折 | （末節骨骨折） |
| 第13回 | 中手指節関節脱臼 | （第1MP、第2～第5MP） |
| 第14回 | 指節間関節脱臼 | （PIP、DIP） |
| 第15回 | 腱・靭帯の損傷、手指部の変形疾患 | |

2021 年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II 部 | | |
|------|---|------|------------|-----|-----|
| | | 対象学年 | 2 年 | 学 期 | 前 期 |
| 科目名 | 柔道整復学 各論ⅢA | 科目の別 | 講 義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 奥田 英樹 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 柔道整復師に必要な柔道整復理論と実技の知識や技術を修得する。 骨折・脱臼・軟部組織損傷に関して、ここでは部位別（体幹、股関節、大腿中央部）に焦点を当て系統的に学習する。 | | | | |
| 到達目標 | 体幹部の骨折・脱臼の定義、分類について説明することができる。 骨折・脱臼の鑑別、合併症、軟部組織損傷など臨床現場における判断基準について説明することができる。 骨折・脱臼・軟部組織損傷の症状、治療法、指導管理について説明することができる。 | | | | |
| 成績評価 | 前期試験 100 点満点 | | | | |
| 使用教材 | 柔道整復学（理論編）（実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 標準整形外科学 南江堂 必要に応じてその他の医学書や文献、スライド、レントゲン写真、MRI 画像を使う。 | | | | |
| 留意点 | | | | | |

| 回 数 | 授業計画 |
|--------|---|
| 第 1 回 | 学習方法のポイント、講義の進め方。頸椎の解剖と機能。上位頸椎の骨折 |
| 第 2 回 | 中・下位頸椎骨折。頸椎脱臼 |
| 第 3 回 | 頸部の軟部組織損傷。頸椎捻挫、バレリュー症候群、神経根型、脊髄症型 |
| 第 4 回 | 胸郭出口症候群 |
| 第 5 回 | 頸椎椎間板ヘルニア、頸椎症、頸部の整形外科的検査方法 |
| 第 6 回 | 外傷性腕神経叢麻痺、副神経麻痺、前鋸筋麻痺 |
| 第 7 回 | 肋骨骨折、胸骨骨折 |
| 第 8 回 | 第 8 実習室にて肋骨骨折固定法実技、肋骨骨折テーピング法とバストバンド固定法 |
| 第 9 回 | 胸椎の骨折脱臼、骨粗鬆症 |
| 第 10 回 | 胸椎の骨折脱臼、骨粗鬆症 |
| 第 11 回 | オンライン講義：胸椎圧迫骨折、チャンス骨折、脊椎破裂骨折、側弯症検診方法 |
| 第 12 回 | 腰部の軟部組織損傷、椎間関節性腰痛 |
| 第 13 回 | 腰部の軟部組織損傷、椎間板性腰痛、筋筋膜性腰痛 |
| 第 14 回 | 腰部の軟部組織損傷、沁り症、分離症、狭窄症 |
| 第 15 回 | 前期確認テスト |

2021 年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II 部 | | |
|------|---|------|------------|-----|-----|
| | | 対象学年 | 2 年 | 学 期 | 後 期 |
| 科目名 | 柔道整復学 各論ⅢB | 科目の別 | 講 義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 奥田 英樹 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 柔道整復師に必要な柔道整復理論と実技の知識や技術を修得する。 骨折・脱臼・軟部組織損傷に関して、ここでは部位別（体幹、股関節、大腿中央部）に焦点を当て系統的に学習する。 | | | | |
| 到達目標 | 体幹部の骨折・脱臼の定義、分類について説明することができる。 骨折・脱臼の鑑別、合併症、軟部組織損傷など臨床現場における判断基準について説明することができる。 骨折・脱臼・軟部組織損傷の症状、治療法、指導管理について説明することができる。 | | | | |
| 成績評価 | 後期試験 100 点満点 | | | | |
| 使用教材 | 柔道整復学（理論編）・柔道整復額（実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修： 南江堂 標準整形外科学 南江堂 必要に応じてその他の医学書や文献、スライド、レントゲン写真、MRI 画像を使う。 | | | | |
| 留意点 | | | | | |

| 回 数 | 授業計画 |
|--------|---------------------|
| 第 1 回 | 腰部、仙骨部の解剖と機能。腰椎の骨折。 |
| 第 2 回 | 腰部の軟部組織損傷。 |
| 第 3 回 | 腰部の軟部組織損傷。 |
| 第 4 回 | 腰部の軟部組織損傷。ウィリアム体操。 |
| 第 5 回 | 骨盤骨骨折 |
| 第 6 回 | 骨盤輪骨折 |
| 第 7 回 | 股関節の解剖と機能。大腿骨近位部骨折 |
| 第 8 回 | 大腿骨近位部骨折 |
| 第 9 回 | 大腿骨転子部骨折 |
| 第 10 回 | 股関節脱臼 |
| 第 11 回 | 股関節脱臼 |
| 第 12 回 | 股関節の軟部組織損傷。 |
| 第 13 回 | 股関節の軟部組織損傷。 |
| 第 14 回 | 大腿骨骨幹部骨折 |
| 第 15 回 | 大腿部の軟部組織損傷。 |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|--|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 2年 | 学期 | 前期 |
| 科目名 | 柔道整復学 各論IVA | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 木全 健太郎 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 柔道整復学における膝関節周囲の疾患について、疫学・発生機序・症状・治療法の理論を修得する。 | | | | |
| 到達目標 | 柔道整復学における膝関節周囲の疾患について正しく理解し、説明できること。 | | | | |
| 成績評価 | 中間試験 30% 期末試験 70% | | | | |
| 使用教材 | 柔道整復学・理論編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂） 柔道整復学・実技編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂） 標準整形外科学（南江堂） | | | | |
| 留意点 | 出席を常とし、こまめな復習を心がけること。 | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|---------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 膝関節の解剖と機能 |
| 第3回 | 大腿骨遠位端部骨折 |
| 第4回 | 下腿骨近位端部骨折 |
| 第5回 | 膝関節脱臼・膝蓋骨骨折 |
| 第6回 | 膝蓋骨脱臼 |
| 第7回 | 中間試験 |
| 第8回 | 半月板損傷 |
| 第9回 | 側副靭帯損傷（内側側副靭帯損傷のXサポートテープ） |
| 第10回 | 十字靭帯損傷 |
| 第11回 | 発育期の膝関節障害 |
| 第12回 | 膝関節のスポーツ障害 |
| 第13回 | 膝蓋大腿関節障害 |
| 第14回 | 膝周囲の関節包、滑液包の異常・神経の障害 |
| 第15回 | 注意すべき疾患（骨肉腫・関節リウマチなど） |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|--|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 2年 | 学期 | 後期 |
| 科目名 | 柔道整復学 各論IVB | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 木全 健太郎 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 柔道整復学における下腿から足部の疾患について、疫学・発生機序・症状・治療法の理論を修得する。 | | | | |
| 到達目標 | 柔道整復学における下腿から足部の疾患について正しく理解し、説明できること。 | | | | |
| 成績評価 | 中間試験 30% 期末試験 70% | | | | |
| 使用教材 | 柔道整復学・理論編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂） 柔道整復学・実技編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂） 標準整形外科学（南江堂） | | | | |
| 留意点 | 出席を常とし、こまめな復習を心がけること。 | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|--------------------------------------|
| 第1回 | 下腿部の解剖と機能 |
| 第2回 | 下腿骨骨幹部骨折（クラーメル副子固定） |
| 第3回 | 下腿骨果上骨折・下腿骨疲労骨折 |
| 第4回 | アキレス腱（周囲）炎・アキレス腱断裂（クラーメル副子固定） |
| 第5回 | 下腿部のスポーツ障害 |
| 第6回 | コンパートメント症候群 |
| 第7回 | 足関節の解剖と機能 |
| 第8回 | 果部骨折・足関節部の脱臼 |
| 第9回 | 足根骨骨折（距骨・踵骨） |
| 第10回 | 足関節捻挫（局所副子固定） |
| 第11回 | 足関節捻挫の類症鑑別 |
| 第12回 | 足関節のテーピング（バスケットウィーブ・フィギュアエイト・ヒールロック） |
| 第13回 | 足・足趾部の解剖と機能 |
| 第14回 | 足根骨骨折（舟状骨・立方骨・楔状骨）・中足骨骨折 |
| 第15回 | 趾骨の骨折・足根部の脱臼と軟部組織損傷 |

2021 年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II 部 | | |
|------|---|------|------------|-----|-----|
| | | 対象学年 | 3 年 | 学 期 | 前 期 |
| 科目名 | 柔道整復学 各論VA | 科目の別 | 講 義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 高橋 亮 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 柔道整復学 総論、体幹の損傷、下肢の損傷について学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | 総論と各論のつながりを説明することができる 体幹の損傷の分類、症状、治療法、合併症について説明することができる 下肢の損傷の分類、症状、治療法、合併症について説明することができる | | | | |
| 成績評価 | 定期試験 70%、小テスト 30% | | | | |
| 使用教材 | 柔道整復学（理論編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 プリントを作成し、配布する | | | | |
| 留意点 | ※欠席は極力控えるよう喚起する ※授業や試験には、医療人としての適切な態度で臨むように指導する | | | | |

| 回 数 | 授業計画 |
|--------|-------------|
| 第 1 回 | 柔道整復学 総論 |
| 第 2 回 | 柔道整復学 総論 |
| 第 3 回 | 柔道整復学 総論 |
| 第 4 回 | 柔道整復学 総論 |
| 第 5 回 | まとめ、復習 |
| 第 6 回 | 体幹の損傷 骨折・脱臼 |
| 第 7 回 | 体幹の損傷 軟損 |
| 第 8 回 | 体幹の損傷 軟損 |
| 第 9 回 | まとめ、復習 |
| 第 10 回 | 下肢の損傷 骨折 |
| 第 11 回 | 下肢の損傷 骨折 |
| 第 12 回 | 下肢の損傷 脱臼 |
| 第 13 回 | 下肢の損傷 軟損 |
| 第 14 回 | 下肢の損傷 軟損 |
| 第 15 回 | まとめ、復習 |

2021 年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II 部 | | |
|------|---|------|------------|-----|-----|
| | | 対象学年 | 3 年 | 学 期 | 後 期 |
| 科目名 | 柔道整復学 各論VB | 科目の別 | 講 義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 高橋 亮 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 柔道整復学 総論、体幹の損傷、下肢の損傷について学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | 総論と各論のつながりを説明することができる 体幹の損傷の分類、症状、治療法、合併症について説明することができる 下肢の損傷の分類、症状、治療法、合併症について説明することができる | | | | |
| 成績評価 | 定期試験 70%、小テスト 30% | | | | |
| 使用教材 | 柔道整復学（理論編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 プリントを作成し、配布する | | | | |
| 留意点 | ※欠席は極力控えるよう喚起する ※授業や試験には、医療人としての適切な態度で臨むように指導する | | | | |

| 回 数 | 授業計画 |
|--------|-------------|
| 第 1 回 | 柔道整復学 総論 |
| 第 2 回 | 柔道整復学 総論 |
| 第 3 回 | 柔道整復学 総論 |
| 第 4 回 | 柔道整復学 総論 |
| 第 5 回 | まとめ、復習 |
| 第 6 回 | 体幹の損傷 骨折・脱臼 |
| 第 7 回 | 体幹の損傷 軟損 |
| 第 8 回 | 体幹の損傷 軟損 |
| 第 9 回 | まとめ、復習 |
| 第 10 回 | 下肢の損傷 骨折 |
| 第 11 回 | 下肢の損傷 骨折 |
| 第 12 回 | 下肢の損傷 脱臼 |
| 第 13 回 | 下肢の損傷 軟損 |
| 第 14 回 | 下肢の損傷 軟損 |
| 第 15 回 | まとめ、復習 |

2021年度 授業計画

| | | | | | |
|------|--|------|-----------|-----|----|
| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
| | | 対象学年 | 3年生 | 学期 | 後期 |
| 科目名 | 柔道整復学 各論VI | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 2 |
| 担当教員 | 太田康晴 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 60 |
| 学修内容 | 上肢の骨折、脱臼、軟部組織損傷の発生机序、検査法、治療法を学修する。 | | | | |
| 到達目標 | 患者の症状から損傷部位を考察することができる。 各損傷の注意すべき合併症が説明できる。 | | | | |
| 成績評価 | 小テスト 50% 期末試験 50% | | | | |
| 使用教材 | 柔道整復学・理論編（南江堂） 柔道整復学・実技編（南江堂） | | | | |
| 留意点 | 授業時間内に正しい理解ができているか確認する時間を設けますので積極的に参加して下さい。 | | | | |

| 回数 | 授業計画 | 回数 | 授業計画 |
|------|------------|------|----------------|
| 第1回 | 鎖骨部の損傷 総論 | 第16回 | 上腕骨外顆骨折 |
| 第2回 | 肩関節の損傷 総論 | 第17回 | 上腕骨内側上顆骨折 |
| 第3回 | 上腕部の損傷 総論 | 第18回 | 橈骨近位端骨折 |
| 第4回 | 肘関節部の損傷 総論 | 第19回 | 肘関節脱臼、肘内障 |
| 第5回 | 前腕部の損傷 総論 | 第20回 | 肘関節の軟部組織損傷 |
| 第6回 | 手関節部の損傷 総論 | 第21回 | 前腕骨骨幹部骨折 |
| 第7回 | 手・指の損傷 総論 | 第22回 | 前腕の軟部組織損傷 |
| 第8回 | 鎖骨骨折 | 第23回 | 橈骨遠位端骨折 |
| 第9回 | 肩鎖関節脱臼 | 第24回 | 手根骨骨折 |
| 第10回 | 肩甲骨骨折 | 第25回 | 手関節部の脱臼 |
| 第11回 | 上腕骨外科頸骨折 | 第26回 | 手関節部の軟部組織損傷 |
| 第12回 | 肩関節脱臼 | 第27回 | 鎖骨部の損傷、肩関節部の損傷 |
| 第13回 | 肩部の軟部組織損傷 | 第28回 | 上腕部の損傷 肘関節部の損傷 |
| 第14回 | 上腕骨骨幹部骨折 | 第29回 | 前腕部の損傷 手関節部の損傷 |
| 第15回 | 上腕骨顆上骨折 | 第30回 | 手・指の損傷 |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|---|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 3年 | 学期 | 前期 |
| 科目名 | 柔道整復学 演習ⅢA | 科目の別 | 演習 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 太田 康晴 | 実務経験 | ○有・無 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 柔道整復に必要な生理学的知識を修得する。 | | | | |
| 到達目標 | 循環器系・呼吸器系・体温調節について臨床症状の検討ができること。 血液・消化・代謝について柔道整復師国家試験に必要な知識を修得すること。 | | | | |
| 成績評価 | 小テスト【50%】 期末試験【50%】 | | | | |
| 使用教材 | 柔道整復学・理論編（南江堂） 生理学（南江堂） 解剖学（医歯薬出版株式会社） | | | | |
| 留意点 | 授業時間内に正しい理解ができているか確認する時間を設けますので積極的に参加して下さい。 | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|------------------|
| 第1回 | 柔道整復師に必要な生理学基礎 |
| 第2回 | 柔道整復師に必要な生理学基礎 |
| 第3回 | 柔道整復師に必要な血液の機能 |
| 第4回 | 柔道整復師に必要な血液の機能 |
| 第5回 | 柔道整復師に必要な循環器の機能 |
| 第6回 | 柔道整復師に必要な循環器の機能 |
| 第7回 | 柔道整復師に必要な呼吸器の機能 |
| 第8回 | 柔道整復師に必要な呼吸器の機能 |
| 第9回 | 柔道整復師に必要な消化器の機能 |
| 第10回 | 柔道整復師に必要な消化器の機能 |
| 第11回 | 柔道整復師に必要な代謝の機能 |
| 第12回 | 柔道整復師に必要な代謝の機能 |
| 第13回 | 柔道整復師に必要な体温とその調節 |
| 第14回 | 柔道整復師に必要な体温とその調節 |
| 第15回 | 柔道整復師に必要な泌尿器の機能 |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|--|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 3年 | 学期 | 後期 |
| 科目名 | 柔道整復学 演習ⅢB | 科目の別 | 演習 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 太田 康晴 | 実務経験 | 有・無 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 柔道整復に必要な生理学的知識を修得する。 | | | | |
| 到達目標 | 筋骨格系・神経系・感覚系について臨床症状の検討ができること。 泌尿器系・内分泌系・生殖系について柔道整復師国家試験に必要な知識を修得すること。 | | | | |
| 成績評価 | 小テスト【50%】 期末試験【50%】 | | | | |
| 使用教材 | 柔道整復学・理論編（南江堂） 生理学（南江堂） 解剖学（医歯薬出版株式会社） | | | | |
| 留意点 | 授業時間内に正しい理解ができているか確認する時間を設けますので積極的に参加して下さい。 | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|-----------------|
| 第1回 | 柔道整復師に必要な泌尿器の機能 |
| 第2回 | 柔道整復師に必要な内分泌の機能 |
| 第3回 | 柔道整復師に必要な内分泌の機能 |
| 第4回 | 柔道整復師に必要な生殖器の機能 |
| 第5回 | 柔道整復師に必要な生殖器の機能 |
| 第6回 | 柔道整復師に必要な骨の機能 |
| 第7回 | 柔道整復師に必要な骨の機能 |
| 第8回 | 柔道整復師に必要な体液の機能 |
| 第9回 | 柔道整復師に必要な体液の機能 |
| 第10回 | 柔道整復師に必要な神経の機能 |
| 第11回 | 柔道整復師に必要な神経の機能 |
| 第12回 | 柔道整復師に必要な筋肉の機能 |
| 第13回 | 柔道整復師に必要な筋肉の機能 |
| 第14回 | 柔道整復師に必要な感覚器の機能 |
| 第15回 | 柔道整復師に必要な感覚器の機能 |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|--|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 3年 | 学期 | 後期 |
| 科目名 | 柔道整復学 演習IV | 科目の別 | 演習 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 福岡 治 | 実務経験 | ○・無 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 整形外科学、運動学、リハビリテーション医学の各教科を復習し、国家試験合格の一助とする。 | | | | |
| 到達目標 | 一般問題 60%以上の得点力を身につけさせる。また、解剖学、生理学、柔道整復学などの他教科とリンクした勉強方法を習得させる。 | | | | |
| 成績評価 | 定期試験 100% 授業進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。 | | | | |
| 使用教材 | 「運動学」医歯薬出版株式会社 「整形外科学」監修：南江堂 「リハビリテーション医学」監修：南江堂 | | | | |
| 留意点 | | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|--------------|
| 第1回 | 整形外科学① |
| 第2回 | 整形外科学② |
| 第3回 | 整形外科学③ |
| 第4回 | 整形外科学④ |
| 第5回 | 整形外科学⑤ |
| 第6回 | 整形外科学⑥ |
| 第7回 | 整形外科学⑦ |
| 第8回 | 整形外科学⑧ |
| 第9回 | リハビリテーション医学① |
| 第10回 | リハビリテーション医学② |
| 第11回 | リハビリテーション医学③ |
| 第12回 | 運動学① |
| 第13回 | 運動学② |
| 第14回 | 運動学③ |
| 第15回 | 運動学④ |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|---|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 2年 | 学期 | 前期 |
| 科目名 | 物理療法 | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 太田 康晴 | 実務経験 | ○有・無 | 時間数 | 15 |
| 学修内容 | 実際の現場で行われる物理療法の知識を習得し、疾病に合わせた物理療法の選択や、アプローチ方法を習得する。 | | | | |
| 到達目標 | 物理療法の効果を患者に説明できるようにする。 目的を持った適切なアプローチができるようにする。 | | | | |
| 成績評価 | 定期試験【100%】 | | | | |
| 使用教材 | 柔道整復学・理論編 改訂6版（南江堂） 最新物理療法の臨床適応（文光堂） 自校にある物理療法機器 | | | | |
| 留意点 | 臨床に出た際に直結する内容であるため、常に医療従事者としての行動・気配りを意識させ、現場に出た際の注意点を常に意識させながら授業を進める。 | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|------------------------|
| 第1回 | 物理療法の分類・安全対策 |
| 第2回 | 痛みの発生メカニズム |
| 第3回 | 低周波電気刺激療法（効果・使用上の注意） |
| 第4回 | 中周波電流療法（効果・使用上の注意） |
| 第5回 | 温熱療法（適応と効果・使用上の注意と禁忌） |
| 第6回 | 変換熱療法（適応と効果・使用上の注意と禁忌） |
| 第7回 | 寒冷療法（適応と効果・使用上の注意と禁忌） |
| 第8回 | 牽引療法（適応と効果・使用上の注意と禁忌） |
| 第9回 | |
| 第10回 | |
| 第11回 | |
| 第12回 | |
| 第13回 | |
| 第14回 | |
| 第15回 | |

2021 年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II 部 | | |
|------|---|------|------------|-----|----|
| | | 対象学年 | 3 年 | 学 期 | 前期 |
| 科目名 | 臨床的判定 | 科目の別 | 講義 | 単位数 | 2 |
| 担当教員 | 奥田 英樹 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 「柔道整復術の適応」で学んだ知識を活用して、臨床所見から判断して施術に適する損傷と、適さない損傷を的確に判断できる能力を身につける。安全に柔道整復術を提供するため医用画像の理解を深める | | | | |
| 到達目標 | 柔道整復術の適応となる損傷に対して質の高い柔道整復術が提供できるようになる 患者を危険に曝さないように怪我や疾病の危険な兆候が発見できる 「医用画像」の特性や判断における要点が理解できる | | | | |
| 成績評価 | 前期試験 100 点満点 | | | | |
| 使用教材 | 施術の適応と医用画像の理解 社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 標準整形外科学 南江堂 必要に応じてその他の医学書や文献、スライド、レントゲン写真、MRI 画像を使う | | | | |
| 留意点 | | | | | |

| 回 数 | 授業計画 |
|--------|-------------------------|
| 第 1 回 | 柔道整復術の適否を考える |
| 第 2 回 | 損傷に類似した症状を示す疾患 |
| 第 3 回 | 損傷に類似した症状を示す疾患 |
| 第 4 回 | 血流障害を伴う損傷 |
| 第 5 回 | 血流障害を伴う損傷 |
| 第 6 回 | 末梢神経損傷を伴う損傷 |
| 第 7 回 | 末梢神経損傷を伴う損傷 |
| 第 8 回 | 脱臼骨折 |
| 第 9 回 | 外出血を伴う損傷 |
| 第 10 回 | 外出血を伴う損傷 |
| 第 11 回 | 病的骨折および脱臼、意識障害を伴う損傷 |
| 第 12 回 | 脊髄症状のある損傷 |
| 第 13 回 | 呼吸運動障害を伴う損傷 |
| 第 14 回 | 内臓損傷の合併が疑われる損傷、高エネルギー外傷 |
| 第 15 回 | 医用画像の理解、確認テスト |

2021 年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II 部 | | |
|------|---|------|------------|-----|-----|
| | | 対象学年 | 1 年 | 学 期 | 前 期 |
| 科目名 | 柔道整復 実技 IA | 科目の別 | 実 習 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 葛谷壽彦 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 柔道整復師として包帯法の知識を修得する。 臨床の現場で、しっかり固定ができるようにする。 | | | | |
| 到達目標 | 包帯法が理解できる。 基本包帯法が上手に巻ける。 | | | | |
| 成績評価 | 実技試験 70% 出席点 20% 服装・授業態度 10% | | | | |
| 使用教材 | 包帯固定学：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 | | | | |
| 留意点 | Tシャツや短パンなど、必要に応じて着用させる。 | | | | |

| 回 数 | 授業計画 |
|--------|----------------|
| 第 1 回 | 包帯の説明、巻き方 |
| 第 2 回 | 基本包帯法 |
| 第 3 回 | 基本包帯法 |
| 第 4 回 | 基本包帯法 |
| 第 5 回 | 基本包帯法まとめ |
| 第 6 回 | 基本包帯法まとめ |
| 第 7 回 | 肩の麦穂帯 |
| 第 8 回 | 肩の麦穂帯 |
| 第 9 回 | 上肢の包帯 |
| 第 10 回 | 上肢の包帯 |
| 第 11 回 | 肩の麦穂帯・上肢の包帯まとめ |
| 第 12 回 | 肩の麦穂帯・上肢の包帯まとめ |
| 第 13 回 | 足関節の包帯 |
| 第 14 回 | 足関節の包帯 |
| 第 15 回 | 下肢の包帯 |

2021 年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II 部 | | |
|------|---|------|------------|-----|-----|
| | | 対象学年 | 1 年 | 学 期 | 後 期 |
| 科目名 | 柔道整復 実技 IB | 科目の別 | 実 習 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 葛谷壽彦 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 柔道整復師として包帯法の知識を修得する。 臨床の現場で、しっかり固定ができるようにする。 | | | | |
| 到達目標 | 包帯法が理解できる。 金属副子による固定ができる。 | | | | |
| 成績評価 | 実技試験 70% 出席点 20% 服装・授業態度 10% | | | | |
| 使用教材 | 包帯固定学：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 | | | | |
| 留意点 | Tシャツや短パンなど、必要に応じて着用させる。 | | | | |

| 回 数 | 授業計画 |
|--------|-----------------|
| 第 1 回 | 下肢の包帯 |
| 第 2 回 | 下肢の包帯まとめ |
| 第 3 回 | 下肢の包帯まとめ |
| 第 4 回 | 金属副子作成 |
| 第 5 回 | 金属副子による上肢の固定 |
| 第 6 回 | 金属副子による上肢の固定 |
| 第 7 回 | 金属副子による上肢の固定 |
| 第 8 回 | 金属副子による上肢の固定まとめ |
| 第 9 回 | 金属副子による上肢の固定まとめ |
| 第 10 回 | 金属副子による下肢の固定 |
| 第 11 回 | 金属副子による下肢の固定 |
| 第 12 回 | 金属副子による下肢の固定 |
| 第 13 回 | 金属副子による下肢の固定まとめ |
| 第 14 回 | 金属副子による下肢の固定まとめ |
| 第 15 回 | 晒しによる固定・頭部の固定 |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|---|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 1年 | 学期 | 前期 |
| 科目名 | 柔道整復 実技ⅡA | 科目の別 | 実習 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 高橋 亮 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 臨床現場で使用する指導方法を習得する。 | | | | |
| 到達目標 | ・対象者の状態に合わせた運動指導を選択できるようにする。 | | | | |
| 成績評価 | 定期試験100% | | | | |
| 使用教材 | <ul style="list-style-type: none"> ・アスレチックトレーナー専門科目テキスト（文光堂） ・ストレングス&コンディショニング（大修館書店） | | | | |
| 留意点 | 身体を動かす機会が多くなるため、事故防止に留意する。 実技を通じて、医療従事者の素養の習得を目指す。 出席を常とする。 | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|------------------------------|
| 第1回 | 運動指導の役割 |
| 第2回 | 運動指導の効果測定と評価 |
| 第3回 | 運動指導のPDCA サイクル |
| 第4回 | 運動指導の注意事項及び計画と実践 |
| 第5回 | 運動指導の注意事項及び計画と実践 |
| 第6回 | 対象者の基礎的状态に対応した運動指導 |
| 第7回 | ウォームアップとクールダウンについて |
| 第8回 | ウォームアップとクールダウンの実践 |
| 第9回 | 運動指導の実際（パワー向上を目的とした運動計画と実践） |
| 第10回 | 運動指導の実際（パワー向上を目的とした運動計画と実践） |
| 第11回 | 運動指導の実際（有酸素運動及び無酸素運動の計画と実践） |
| 第12回 | 運動指導の実際（有酸素運動及び無酸素運動の計画と実践） |
| 第13回 | 運動指導の実際（スピード向上を目的とした運動計画と実践） |
| 第14回 | 運動指導の実際（スピード向上を目的とした運動計画と実践） |
| 第15回 | 運動指導を行うにあたってのリスク管理 |

2021 年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II 部 | | |
|------|---|------|------------|-----|-----|
| | | 対象学年 | 1 年 | 学 期 | 後 期 |
| 科目名 | 柔道整復 実技 II B | 科目の別 | 実 習 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 高橋 亮 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 臨床現場で使用する指導方法を習得する。 | | | | |
| 到達目標 | ・対象者の状態に合わせた運動指導を選択できるようにする。 | | | | |
| 成績評価 | 定期試験 100% | | | | |
| 使用教材 | <ul style="list-style-type: none"> ・アスレチックトレーナー専門科目テキスト（文光堂） ・ストレングス&コンディショニング（大修館書店） | | | | |
| 留意点 | 身体を動かす機会が多くなるため、事故防止に留意する。 実技を通じて、医療従事者の素養の習得を目指す。 出席を常とする。 | | | | |

| 回 数 | 授 業 計 画 |
|--------|--------------------------|
| 第 1 回 | 運動指導の為の倫理及び活用実践 |
| 第 2 回 | 傷病者評価 |
| 第 3 回 | BLS (Basic Life Support) |
| 第 4 回 | 固定法（包帯・テーピング等） |
| 第 5 回 | 固定法（包帯・テーピング等） |
| 第 6 回 | 固定法（包帯・テーピング等） |
| 第 7 回 | 固定法（包帯・テーピング等） |
| 第 8 回 | 固定法（包帯・テーピング等） |
| 第 9 回 | 固定法（包帯・テーピング等） |
| 第 10 回 | 固定法（包帯・テーピング等） |
| 第 11 回 | 固定法（包帯・テーピング等） |
| 第 12 回 | 固定法（包帯・テーピング等） |
| 第 13 回 | 固定法（包帯・テーピング等） |
| 第 14 回 | 固定法（包帯・テーピング等） |
| 第 15 回 | 総復習 |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|--|------|-----------|-----|------|
| | | 対象学年 | 2年 | 学期 | 前期 |
| 科目名 | 柔道整復 実技ⅢA | 科目の別 | 実習 | 単位数 | 1単位 |
| 担当教員 | 愛知 秀一 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30時間 |
| 学修内容 | 職業としての柔道整復師の理解する 柔道整復師の業務内容を理解する 業を行うのに必要な知識を確認し修得する | | | | |
| 到達目標 | 柔道整復師の業務内容を説明できる 柔道整復師の業を行うのに必要な知識と技術を修得できる | | | | |
| 成績評価 | 授業内容に即した課題提出 授業内に行う実技を評価 | | | | |
| 使用教材 | 柔道整復学・理論編、実技編（南江堂） 病気がみえる 11「運動器。整形外科」（メディックメディア） | | | | |
| 留意点 | | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|--------------------------|
| 第1回 | 職業としての柔道整復術を考える |
| 第2回 | 専門職としての柔道整復術を考える |
| 第3回 | 健康保険、労災保険、自賠責保険、自由診療について |
| 第4回 | 接骨院の業務内容概説 |
| 第5回 | 予診表について（中和式、英語版を参考に） |
| 第6回 | 診察の流れと施術録の記入について |
| 第7回 | 紹介状、依頼状、情報提供について |
| 第8回 | 問診（医療面接）について |
| 第9回 | 主訴、現病歴、既往歴について |
| 第10回 | 服薬、アレルギー歴、家族歴、生活歴について |
| 第11回 | 疼痛の問診について① |
| 第12回 | 疼痛の問診について② |
| 第13回 | 痺れの間診について① |
| 第14回 | 痺れの間診について② |
| 第15回 | 総合復習 |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|--|------|-----------|-----|------|
| | | 対象学年 | 2年 | 学期 | 後期 |
| 科目名 | 柔道整復 実技ⅢB | 科目の別 | 実習 | 単位数 | 1単位 |
| 担当教員 | 愛知 秀一 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30時間 |
| 学修内容 | 職業としての柔道整復師の理解する 柔道整復師の業務内容を理解する 業を行うのに必要な知識を確認し修得する | | | | |
| 到達目標 | 柔道整復師の業務内容を説明できる 柔道整復師の業を行うのに必要な知識と技術を修得できる | | | | |
| 成績評価 | 授業内容に即した課題提出 授業内に行う実技を評価 | | | | |
| 使用教材 | 柔道整復学・理論編、実技編（南江堂） 病気がみえる 11「運動器。整形外科」（メディックメディア） | | | | |
| 留意点 | | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|-----------------------|
| 第1回 | 徒手検査法について |
| 第2回 | 症状の評価について |
| 第3回 | 骨、骨格筋、神経症状の差異について |
| 第4回 | ニュートラルポジションの理解 |
| 第5回 | 下半身の評価① |
| 第6回 | 下半身の評価② |
| 第7回 | 上半身の評価① |
| 第8回 | 上半身の評価② |
| 第9回 | 指導管理について（姿勢・セルフストレッチ） |
| 第10回 | テーピング実技① |
| 第11回 | テーピング実技② |
| 第12回 | パートナーストレッチ① |
| 第13回 | パートナーストレッチ② |
| 第14回 | 総合復習 |
| 第15回 | 総合復習 |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科Ⅱ部 | | |
|------|---|------|---------|-----|----|
| | | 対象学年 | 3年 | 学期 | 前期 |
| 科目名 | 柔道整復 実技Ⅳ A | 科目の別 | 実習 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 伊藤 和己 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30 |
| | 上肢に於いて、臨床上よく遭遇する損傷・障害の判定・手技操作・固定法を修得する 肩から肘・手・指部の損傷に於いての整と復 | | | | |
| 到達目標 | 学生が卒業後、臨床現場で活躍できる知識および技能を身につける 患部の固定包帯も巻けないことのないように 最低限の固定が出来、復させる事が出来るようになる | | | | |
| 成績評価 | 1. 定期実技試験 2. 授業態度および小実技テスト（理解などを総合的な評価） 3. 出席日数 ※配点比率は、1=60%、2=40%、3=欠席1コマにつき-5点とする 内職も-2点とし3回以降は毎回-5点とする | | | | |
| 使用教材 | ・柔道整復学 理論編、実技編、包帯固定学 ・映像・画像（含むインターネット） | | | | |
| 留意点 | 卒業後の臨床に役立つように身近な症例の実技とコツを伝授、また柔整手技の重要性を理解させたい 臨床と同じ心構え（清潔感 立ち居振る舞い） | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|------------|
| 第1回 | 肩から肘の機能解剖 |
| 第2回 | 肩部の外傷 整と復 |
| 第3回 | 肩部の外傷 整と復 |
| 第4回 | 肩部の外傷 整と復 |
| 第5回 | 肩部の外傷 整と復 |
| 第6回 | 上腕部の外傷 整と復 |
| 第7回 | 上腕部の外傷 整と復 |
| 第8回 | 上腕部の外傷 整と復 |
| 第9回 | 上腕部の外傷 整と復 |
| 第10回 | 肘部の外傷 整と復 |
| 第11回 | 肘部の外傷 整と復 |
| 第12回 | 肘部の外傷 整と復 |
| 第13回 | 肘部の外傷 整と復 |
| 第14回 | 実技試験 |
| 第15回 | 前期総評 |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科Ⅱ部 | | |
|------|---|------|---------|-----|----|
| | | 対象学年 | 3年 | 学期 | 後期 |
| 科目名 | 柔道整復 実技Ⅳ B | 科目の別 | 実習 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 伊藤 和己 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 上肢に於いて、臨床上よく遭遇する損傷・障害の判定・手技操作・固定法を修得する 前腕から手・指部の損傷に於いての整と復 | | | | |
| 到達目標 | 学生が卒業後、臨床現場で活躍できる知識および技能を身につける 患部の固定包帯も巻けないことのないように 最低限の固定が出来、復させる事が出来るようになる | | | | |
| 成績評価 | 1. 定期実技試験 2. 授業態度および小実技テスト（理解などを総合的な評価） 3. 出席日数 ※配点比率は、1=60%、2=40%、3=欠席1時間につき-1点とする 内職も-1点とし3回以降は毎回-5点とする | | | | |
| 使用教材 | ・柔道整復学 理論編、実技編、包帯固定学 ・映像・画像（含むインターネット） | | | | |
| 留意点 | 卒業後の臨床に役立つように身近な症例の実技とコツを伝授、また柔整手技の重要性を理解させたい 患者さんの利益を最優先に | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|----------------------------------|
| 第1回 | 手・指部の外傷 整と復 |
| 第2回 | 手・指部の外傷 整と復 |
| 第3回 | 手・指部の外傷 整と復 |
| 第4回 | 手・指部の外傷 整と復 |
| 第5回 | 手・指部の外傷 整と復 |
| 第6回 | 鎖骨骨折・上腕骨骨折・肩鎖関節上方脱臼・肩関節前方脱臼 整復固定 |
| 第7回 | 鎖骨骨折・上腕骨骨折・肩鎖関節上方脱臼・肩関節前方脱臼 整復固定 |
| 第8回 | 前腕骨下端部骨折・肘関節前方脱臼 整復固定 |
| 第9回 | 前腕骨下端部骨折・肘関節前方脱臼 整復固定 |
| 第10回 | 上肢軟部組織損傷 整と復 |
| 第11回 | 上肢軟部組織損傷 全上 |
| 第12回 | 上肢軟部組織損傷 全上 |
| 第13回 | 上肢軟部組織損傷 全上 |
| 第14回 | 後期実技テスト |
| 第15回 | 総評 柔道整復師のすべきこと |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|--|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 3年 | 学期 | 前期 |
| 科目名 | 柔道整復 実技VA | 科目の別 | 実習 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 金森道広 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 下肢損傷に対する包帯固定・手技療法を修得する | | | | |
| 到達目標 | 臨床現場において損傷を的確に判断し、早期社会復帰・QOLを目指して確実に施術できるようにする | | | | |
| 成績評価 | 定期試験（実技）100% | | | | |
| 使用教材 | 柔道整復学【理論編】 社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂） 柔道整復学【実技編】 社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂） 標準整形外科学（南江堂） レントゲン画像 損傷部位の外観写真 | | | | |
| 留意点 | 膝関節・足関節の損傷は臨床現場においても多く、患者に対して適確に施術ができるよう理解・修得が必用である 実技において包帯固定は反復練習が必用のため皆勤が望ましい | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|---|
| 第1回 | 急性損傷・亜急性損傷について |
| 第2回 | 亜急性による損傷部位（スポーツ障害・成長痛） |
| 第3回 | 亜急性による損傷部位 // |
| 第4回 | 亜急性による損傷部位 // |
| 第5回 | 急性損傷 骨折・軟部組織損傷（損傷部位の触診） |
| 第6回 | 急性損傷 骨折・軟部組織損傷 // |
| 第7回 | 下肢骨折のレントゲン画像（スケッチ） |
| 第8回 | 下肢骨折のレントゲン画像 // |
| 第9回 | 病的骨折・骨腫瘍のレントゲン画像 |
| 第10回 | 柔道整復師の手技療法（軽擦法・強擦法・揉捏法・叩打法・振戦法・圧迫法・伸張法） |
| 第11回 | 柔道整復師の手技療法 // |
| 第12回 | 柔道整復師の手技療法 // |
| 第13回 | 厚紙副子・クラーメル副子の作成 |
| 第14回 | 厚紙副子・クラーメル副子の作成 |
| 第15回 | 厚紙副子・クラーメル副子の作成 |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|--|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 3年 | 学期 | 後期 |
| 科目名 | 柔道整復 実技VB | 科目の別 | 実習 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 金森道広 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 下肢損傷に対する包帯固定・手技療法を修得する | | | | |
| 到達目標 | 臨床現場において損傷を的確に判断し、早期社会復帰・QOLを目指して確実に施術できるようにする | | | | |
| 成績評価 | 定期試験（実技）100% | | | | |
| 使用教材 | 柔道整復学【理論編】 社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂） 柔道整復学【実技編】 社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂） 標準整形外科学（南江堂） レントゲン画像 損傷部位の外観写真 | | | | |
| 留意点 | 膝関節・足関節の損傷は臨床現場においても多く、患者に対して適確に施術ができるよう理解・修得が必用である 実技において包帯固定は反復練習が必用のため皆勤が望ましい | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|--|
| 第1回 | 膝関節・足関節の包帯固定 |
| 第2回 | 膝関節・足関節のテーピング固定 |
| 第3回 | 膝関節・足関節の厚紙副子・クラーメル副子を用いた包帯固定 |
| 第4回 | 膝関節・足関節の厚紙副子・クラーメル副子を用いた包帯固定 |
| 第5回 | 膝関節・足関節の厚紙副子・クラーメル副子を用いた包帯固定 |
| 第6回 | 膝関節・足関節の厚紙副子・クラーメル副子を用いた包帯固定 |
| 第7回 | ギプス・キャストの固定 |
| 第8回 | 臨床現場を想定した模擬演習（各損傷に対して整復・固定・後療のプログラミング） |
| 第9回 | 臨床現場を想定した模擬演習（各損傷に対して整復・固定・後療のプログラミング） |
| 第10回 | 臨床現場を想定した模擬演習（各損傷に対して整復・固定・後療のプログラミング） |
| 第11回 | 臨床現場を想定した模擬演習（各損傷に対して整復・固定・後療のプログラミング） |
| 第12回 | 臨床現場を想定した模擬演習（発表会・整復から治癒に至るまで） |
| 第13回 | 臨床現場を想定した模擬演習（発表会・整復から治癒に至るまで） |
| 第14回 | 臨床現場を想定した模擬演習（発表会・整復から治癒に至るまで） |
| 第15回 | 臨床現場を想定した模擬演習（発表会・整復から治癒に至るまで） |

2021 年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II 部 | | |
|------|--|------|------------|-----|-----|
| | | 対象学年 | 2 年 | 学 期 | 前 期 |
| 科目名 | 臨床入門 I | 科目の別 | 実習 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 木全 健太郎 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 上肢（肩関節、肘関節、手関節）の体表触察、関節可動域測定、徒手筋力検査、各種理学所見のとり方（腱反射など）、エコー画像の描出法を修得する。 医療面接の基本を修得する。 | | | | |
| 到達目標 | 臨床上よく遭遇する上肢の疾患について、見て（診て）、触って、動かして評価できること。 臨床実習を行う前段階として、患者に接する基本的姿勢を身に付けること。 | | | | |
| 成績評価 | 中間試験 30% 期末試験 70% | | | | |
| 使用教材 | 柔道整復学・理論編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂） 柔道整復学・実技編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂） | | | | |
| 留意点 | 出席を常とし、理論に基づいた実技の修得を心がけること。 医療従事者としての姿勢を身に付けること。 | | | | |

| 回 数 | 授業計画 |
|--------|----------------------|
| 第 1 回 | オリエンテーション |
| 第 2 回 | 評価総論、ROM と MMT について |
| 第 3 回 | 身体計測（肢長および周径） |
| 第 4 回 | 肩甲帯の ROM |
| 第 5 回 | 肩甲帯の MMT |
| 第 6 回 | 肩関節の ROM |
| 第 7 回 | 肩関節の MMT・徒手検査法・エコー観察 |
| 第 8 回 | 中間試験（身体計測～肩関節の評価） |
| 第 9 回 | 肘関節の ROM |
| 第 10 回 | 肘関節の MMT |
| 第 11 回 | 肘関節の徒手検査法・エコー観察 |
| 第 12 回 | 手関節の ROM |
| 第 13 回 | 手関節の MMT |
| 第 14 回 | 手関節の徒手検査法・エコー観察 |
| 第 15 回 | 期末試験 |

2021 年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II 部 | | |
|------|--|------|------------|-----|-----|
| | | 対象学年 | 2 年 | 学 期 | 後 期 |
| 科目名 | 臨床入門Ⅱ | 科目の別 | 実習 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 木全 健太郎 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 脊柱から下肢（股関節、膝関節、足関節）の体表触察、関節可動域測定、徒手筋力検査、各種理学所見のとり方（腱反射など）、エコー画像の描出法を修得する。 医療面接の基本を修得する。 | | | | |
| 到達目標 | 臨床上よく遭遇する脊柱から下肢の疾患について、見て（診て）、触って、動かして評価できること。臨床実習を行う前段階として、患者に接する基本的姿勢を身に付けること。 | | | | |
| 成績評価 | 中間試験 30% 期末試験 70% | | | | |
| 使用教材 | 柔道整復学・理論編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂） 柔道整復学・実技編（社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂） | | | | |
| 留意点 | 出席を常とし、理論に基づいた実技の修得を心がけること。 医療従事者としての姿勢を身に付けること。 | | | | |

| 回 数 | 授業計画 |
|--------|------------------------|
| 第 1 回 | 医療面接 |
| 第 2 回 | 股関節の ROM |
| 第 3 回 | 股関節の MMT |
| 第 4 回 | 股関節の徒手検査法 |
| 第 5 回 | 股関節の徒手療法（筋力強化訓練とストレッチ） |
| 第 6 回 | 膝関節の ROM |
| 第 7 回 | 膝関節の MMT |
| 第 8 回 | 膝関節の徒手検査法・エコー観察 |
| 第 9 回 | 中間試験（股関節～膝関節の評価） |
| 第 10 回 | 足関節の ROM |
| 第 11 回 | 足関節の MMT |
| 第 12 回 | 足関節の徒手検査法・エコー観察 |
| 第 13 回 | 頸椎椎間板ヘルニアの検査法 |
| 第 14 回 | 腰椎椎間板ヘルニアの検査法 |
| 第 15 回 | 期末試験 |

2021 年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II 部 | | |
|------|---|------|------------|-----|-----|
| | | 対象学年 | 3 年 | 学 期 | 前 期 |
| 科目名 | 総合実技 IA | 科目の別 | 実 習 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 葛谷壽彦 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 認定実技試験に対応できる、知識と技術を獲得する。 国家試験に向けた総合学習を行う。 | | | | |
| 到達目標 | 骨折（3種類）の診察及び整復ができる。 脱臼（4種類）の診察及び整復ができる。 軟部組織損傷（9種類）の診察及び検査ができる。 | | | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験 70% ; 授業時間内に実施 2. 出席について 20% 3. 服装・態度について 10% | | | | |
| 使用教材 | 中和式 認定実技マニュアル 授業内で配布する資料 柔道整復学（理論編・実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 | | | | |
| 留意点 | Tシャツや短パンなど、必要に応じて着用させる。 | | | | |

| 回 数 | 授業計画 |
|------|----------------------|
| 第1回 | 認定実技審査について |
| 第2回 | 認定実技審査について |
| 第3回 | 鎖骨定型的骨折 |
| 第4回 | 上腕骨外科頸骨折 |
| 第5回 | コーレス骨折 |
| 第6回 | 肩鎖関節上方脱臼 |
| 第7回 | 肩関節前方烏口下脱臼 |
| 第8回 | 肘関節後方脱臼 |
| 第9回 | 肘内障 |
| 第10回 | 第3回～9回のまとめ・確認 |
| 第11回 | 肩腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷 |
| 第12回 | ハムストリングス損傷、大腿四頭筋打撲 |
| 第13回 | 膝関節（側副靭帯、十字靭帯、半月板）損傷 |
| 第14回 | 下腿三頭筋損傷、足関節外側靭帯損傷 |
| 第15回 | 第11回～14回のまとめ・確認 |

2021 年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II 部 | | |
|------|---|------|------------|-----|-----|
| | | 対象学年 | 3 年 | 学 期 | 後 期 |
| 科目名 | 総合実技 I B | 科目の別 | 実 習 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 葛谷壽彦 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 認定実技試験に対応できる、知識と技術を獲得する。 国家試験に向けた総合学習を行う。 | | | | |
| 到達目標 | 骨折（3種類）の診察及び整復ができる。 脱臼（4種類）の診察及び整復ができる。 軟部組織損傷（9種類）の診察及び検査ができる。 | | | | |
| 成績評価 | 1. 実技試験 70% ; 授業時間内に実施 2. 出席について 20% 3. 服装・態度について 10% | | | | |
| 使用教材 | 中和式 認定実技マニュアル 授業内で配布する資料 柔道整復学（理論編・実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 | | | | |
| 留意点 | Tシャツや短パンなど、必要に応じて着用させる。 | | | | |

| 回 数 | 授業計画 |
|--------|-----------------------|
| 第 1 回 | 軟部組織損傷（9種類）の診察・検査について |
| 第 2 回 | 軟部組織損傷（9種類）の診察・検査について |
| 第 3 回 | 骨折（3種類）の診察・整復について |
| 第 4 回 | 骨折（3種類）の診察・整復について |
| 第 5 回 | 脱臼（4種類）の診察・整復について |
| 第 6 回 | 脱臼（4種類）の診察・整復について |
| 第 7 回 | 総復習 |
| 第 8 回 | 総復習 |
| 第 9 回 | 総復習 |
| 第 10 回 | 必修問題対策 |
| 第 11 回 | 必修問題対策 |
| 第 12 回 | 必修問題対策 |
| 第 13 回 | 国家試験関係対策 |
| 第 14 回 | 国家試験関係対策 |
| 第 15 回 | 国家試験関係対策 |

2021 年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II 部 | | |
|------|---|------|------------|-----|-------|
| | | 対象学年 | 3 年 | 学 期 | 前 期 |
| 科目名 | 総合実技 II A | 科目の別 | 実 習 | 単位数 | 1 単位 |
| 担当教員 | 愛知 秀一 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30 時間 |
| 学修内容 | 認定実技試験に対応できる、知識と技術を獲得する。 国家試験に向けた総合学習を行う。 | | | | |
| 到達目標 | 固定法を行うことができる。 各骨折、脱臼について説明することができる。 | | | | |
| 成績評価 | 授業内に行う確認試験にて評価を行う (前期：3 回) | | | | |
| 使用教材 | 授業内で配布する資料 柔道整復学（理論編・実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 包帯固定法：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 | | | | |
| 留意点 | | | | | |

| 回 数 | 授業計画 |
|--------|-----------------------|
| 第 1 回 | 内容説明 絆創膏固定① 鎖骨骨折 |
| 第 2 回 | 絆創膏固定② 肩鎖関節脱臼 |
| 第 3 回 | シーネ固定① ミッテルドルフ |
| 第 4 回 | シーネ固定② コーレス骨折、肘関節脱臼 |
| 第 5 回 | シーネ固定③ アキレス腱、下腿骨幹部 |
| 第 6 回 | 第 1～5 回の確認 |
| 第 7 回 | アルミ副子固定① ボクサー骨折 |
| 第 8 回 | アルミ副子固定② 第 2 PIP 関節脱臼 |
| 第 9 回 | 厚紙副子固定① 肋骨骨折、肩関節脱臼 |
| 第 10 回 | 厚紙副子固定② 足関節捻挫 |
| 第 11 回 | 第 7～10 回の確認 |
| 第 12 回 | テーピング固定① 膝関節、足関節 |
| 第 13 回 | テーピング固定② 足関節 |
| 第 14 回 | テーピング固定③ |
| 第 15 回 | 第 12～14 回の確認 |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II部 | | |
|------|---|------|-----------|-----|----|
| | | 対象学年 | 3年 | 学期 | 後期 |
| 科目名 | 総合実技ⅡB | 科目の別 | 実習 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 愛知 秀一 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 認定実技試験に対応できる、知識と技術を獲得する。 国家試験に向けた総合学習を行う。 | | | | |
| 到達目標 | 固定法を行うことができる。 各骨折、脱臼について説明することができる。 | | | | |
| 成績評価 | 認定実技模試と認定実技審査の結果を元に評価を行う | | | | |
| 使用教材 | 授業内で配布する資料 柔道整復学（理論編・実技編）：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 包帯固定法：社団法人全国柔道整復学校協会 監修：南江堂 | | | | |
| 留意点 | | | | | |

| 回数 | 授業計画 |
|------|--------------------|
| 第1回 | シーネ・アルミ副子・厚紙副子固定練習 |
| 第2回 | シーネ・アルミ副子・厚紙副子固定練習 |
| 第3回 | シーネ・アルミ副子・厚紙副子固定練習 |
| 第4回 | 絆創膏・テーピング固定練習 |
| 第5回 | 絆創膏・テーピング固定練習 |
| 第6回 | 絆創膏・テーピング固定練習 |
| 第7回 | 認定実技模試前総合復習 |
| 第8回 | 模試反省改善点の確認 |
| 第9回 | 認定実技直前総合復習 |
| 第10回 | 認定実技後振り返り |
| 第11回 | 国家試験対策 |
| 第12回 | 国家試験対策 |
| 第13回 | 国家試験対策 |
| 第14回 | 国家試験対策 |
| 第15回 | 国家試験対策 |

2021 年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II 部 | | |
|------|--|------|------------|-----|----|
| | | 対象学年 | 3 年 | 学 期 | 後期 |
| 科目名 | 外傷予防 | 科目の別 | 実 習 | 単位数 | 1 |
| 担当教員 | 奥田 英樹 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 30 |
| 学修内容 | 柔道整復師として外傷治療の目的で来院された競技者に外傷予防や再発予防トレーニングなどが出来るよう知識や技能を習得する。介護予防における高齢者に対して機能訓練として高齢者介護に対する知識の習得に務める | | | | |
| 到達目標 | 競技者に外傷予防や再発予防トレーニングなどが出来るようになる。高齢者介護における機能訓練指導が出来るようになる | | | | |
| 成績評価 | 後期試験 100 点満点の内訳 (メディカルチェック 50 点、高齢者機能訓練指導 50 点) | | | | |
| 使用教材 | 競技者の外傷予防、柔道整復師と機能訓練指導 社団法人全国柔道整復学校協会 監修： 南江堂 標準整形外科学 南江堂、必要に応じてその他の医学書や文献、スライド、レントゲン写真、MRI 画像を使う | | | | |
| 留意点 | 30 時間の内訳は、「競技者の外傷予防 15 時間」、「高齢者の外傷予防 15 時間」で実施する | | | | |

| 回 数 | 授業計画 |
|--------|-------------------------------|
| 第 1 回 | 競技者の外傷予防 |
| 第 2 回 | 競技者の外傷予防のための実技 |
| 第 3 回 | 競技者の外傷予防のための実技 |
| 第 4 回 | 競技者の外傷予防のための実技 |
| 第 5 回 | 競技者の外傷予防のための実技 |
| 第 6 回 | 競技者の外傷予防のための実技 |
| 第 7 回 | 競技者の外傷予防のための実技 |
| 第 8 回 | 競技者の外傷予防のための実技 高齢者の外傷予防 |
| 第 9 回 | 柔道整復師と介護保険 |
| 第 10 回 | 老化に伴う心と身体の変化と日常生活 サルコペニアとフレイル |
| 第 11 回 | 認知症の理解 |
| 第 12 回 | 認知症の理解 |
| 第 13 回 | 介護保険制度、高齢者介護と ICF |
| 第 14 回 | 機能訓練指導員と機能訓練、機能訓練で提供する運動と要点 |
| 第 15 回 | 機能訓練指導員と機能訓練、機能訓練で提供する運動と要点 |

2021年度 授業計画

| | | 科の種別 | 柔道整復科 II 部 | | |
|------|--|------|------------|-----|-----|
| | | 対象学年 | 2～3年 | 学期 | 通年 |
| 科目名 | 臨床実習 | 科目の別 | 実習 | 単位数 | 4 |
| 担当教員 | 戸崎素成・木全 健太郎・太田 康晴・高橋 亮 | 実務経験 | 有 | 時間数 | 180 |
| 学修内容 | 学校で学んだ事を、臨床現場で活用できるようにする。 患者さんとのコミュニケーションをできるようにする。 接骨院実習で遭遇した症例を振り返り、実習時の対応について妥当性を検討できる。 | | | | |
| 到達目標 | 接骨院業務の流れを覚える。 評価と施術ができる。 レポートおよび発表を通じて第三者に客観的データとともに議論できること。 | | | | |
| 成績評価 | 校内臨床実習と校外臨床実習を勘案して評価する。 評価割合は3：1とする。 | | | | |
| 使用教材 | 臨床実習の手引き | | | | |
| 留意点 | 臨床実習4単位180時間のうち、1単位45時間分を校外臨床実習として行う。 校外臨床実習のうち、1単位45時間を2年生学年末休業中と3年生夏期休業中に実施する。 | | | | |

授業計画（学修内容）

基礎実習

- 1) 柔道整復師としてふさわしい服装、身だしなみや態度を身につける
- 2) 医療面接の実施
- 3) ROM、MMTなどを計測、評価の実施
- 4) 神経学的検査、脈管検査、評価の実施
- 5) 治療機器の効果、禁忌の理解
- 6) ベッドメイキング、衛生面への配慮

【見学実習】 環境準備、受付業務、患者さんの誘導を実施

【体験実習】 患者として施術を受け、グループディスカッションの実施

患者さんに対する対応

- 1) 患者に対して適切な対応ができる
- 2) 患者の抱える問題点に共感できる。
- 3) 自己の問題点を抽出し、解決できる。

施術録作成・症例検討

- 1) 施術録の記載
- 2) 症例検討の実施

保険請求（受療委任の手続き）

- 1) 手続きの意義
- 2) 記載方法の実施